

参 考 資 料

- 資料 1. 八雲町の現状
- 資料 2. 八雲町の都市計画
- 資料 3. アンケート調査結果概要
- 資料 4. 策定経緯
- 資料 5. 用語の解説

資料 1. 八雲町の現状

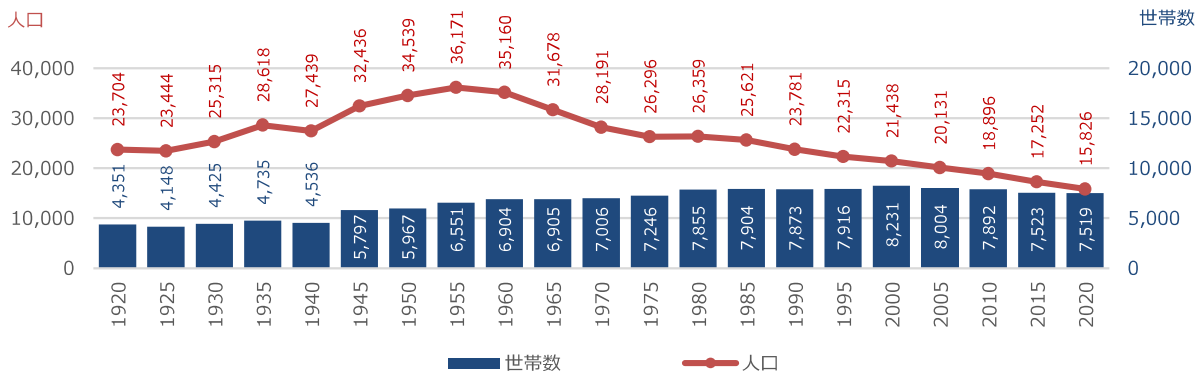
1 人口

- ・八雲町の人口、世帯数は、令和 2 年で 15,826 人、7,519 世帯となっています。
 - ・推移をみると、人口は昭和 30（1955）年の 36,171 人をピークに減少に転じ、令和 2 年ではピーク時の 43.8%となっています。
 - ・世帯数は、平成 12（2000）年の 8,231 世帯をピークに減少に転じ、令和 2 年ではピーク時の 91.3%となっています。
 - ・5 歳階級別男女人口（人口ピラミッド）の推移をみると、昭和 30（1955）年当時の高齢化率が 4%のピラミッド型から令和 27（2045）年（推計値）の高齢化率 48%の逆三角形と大きく構造変化が起きることが想定されます。
 - ・高齢化率は令和 2（2020）年で 35%ですが、令和 27（2045）年で 48%と上昇することが想定されます。一方、高齢者数は令和 2（2020）年でピークアウトし、その後、減少すると想定されます。
 - ・生産年齢人口は、昭和 55（1980）年の 17,160 人、65%をピークに、以降、減少に転じ、令和 27（2045）年には、6,063 人、45%と約 1/3 になり、20 ポイント減少することが想定されます。
- 人口・世帯数の減少により、上下水道などのインフラの一人当たりの維持管理費が上昇し、財政の負担が大きくなることから、定住の促進が求められます。
- 生産人口が減少することにより、住民税などの収入が減少し、厳しい財政運営となることから、新たな産業の創出と雇用の居住確保が求められます。
- 著しい高齢化により、介護保険料や医療費などの負担の増大が財政上の大きな課題になります。
- 高齢者数は令和 2（2020）年をピークに減少に転じることから高齢者の関連施設のキャパシティに配慮が必要になります。

表 1 人口・世帯数の推移 (単位：人、世帯)

区分	人口	世帯数	世帯人員	5年増減数			
				人口		世帯	
				実数	前回比	実数	前回比
平成 7 年	22,315	7,916	2.82	16,650	3.94	6,370	5.12
平成 12 年	21,438	8,231	2.60	△ 877	0.96	315	1.04
平成 17 年	20,131	8,004	2.52	△ 1,307	0.94	△ 227	0.97
平成 22 年	18,896	7,892	2.39	△ 1,235	0.94	△ 112	0.99
平成 27 年	17,252	7,523	2.29	△ 1,644	0.91	△ 369	0.95
令和 2 年	15,826	7,519	2.10	△ 1,426	0.92	△ 4	1.00

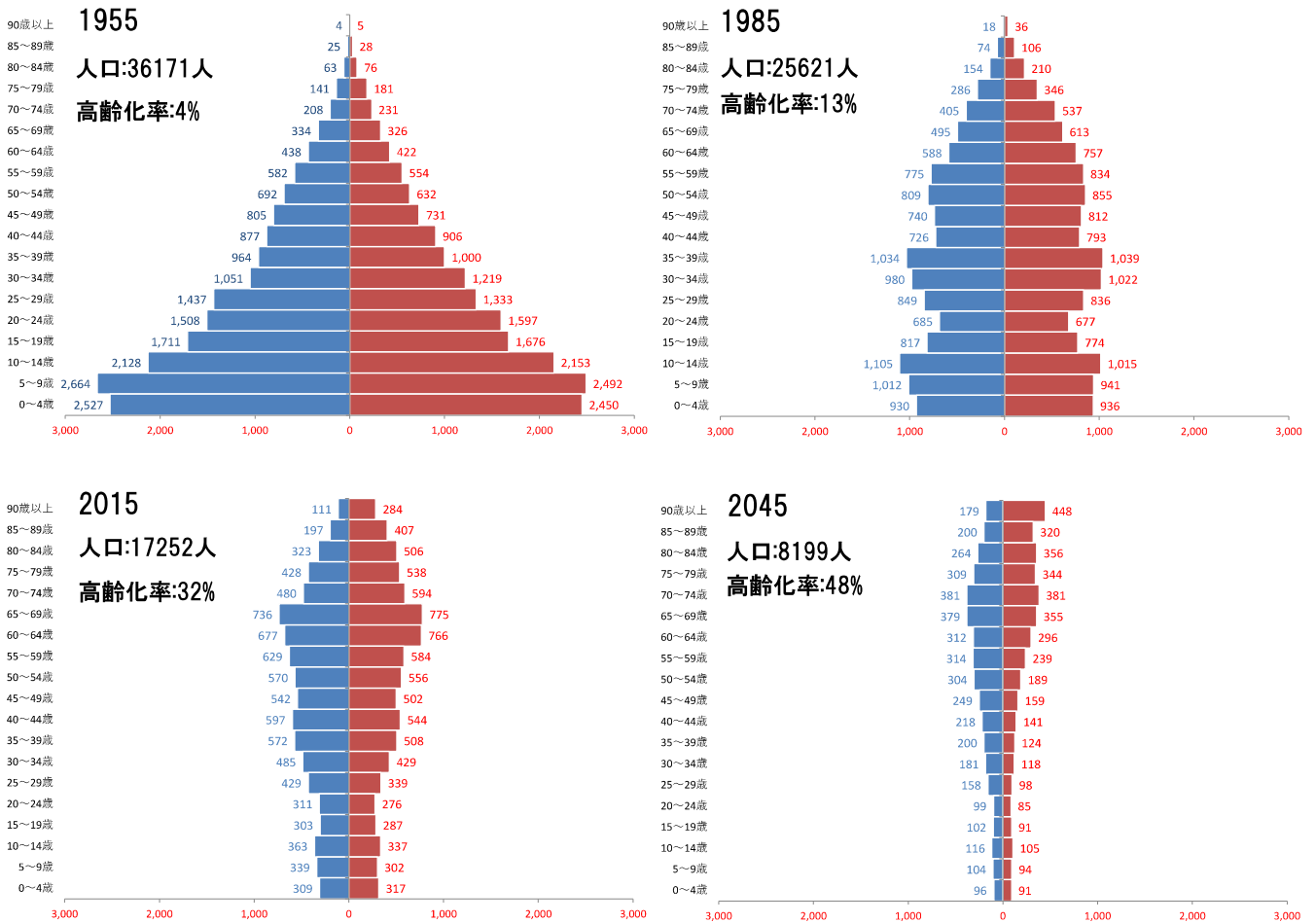
図 1 人口・世帯の推移



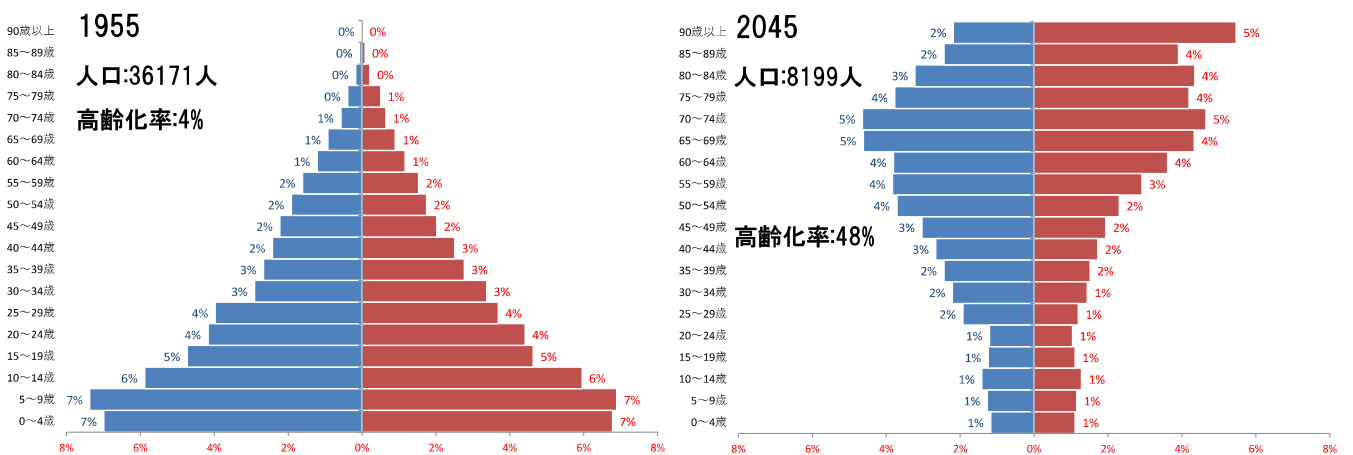
資料：各年国勢調査結果（総務省統計局）

図2 人口ピラミッド

【実数】

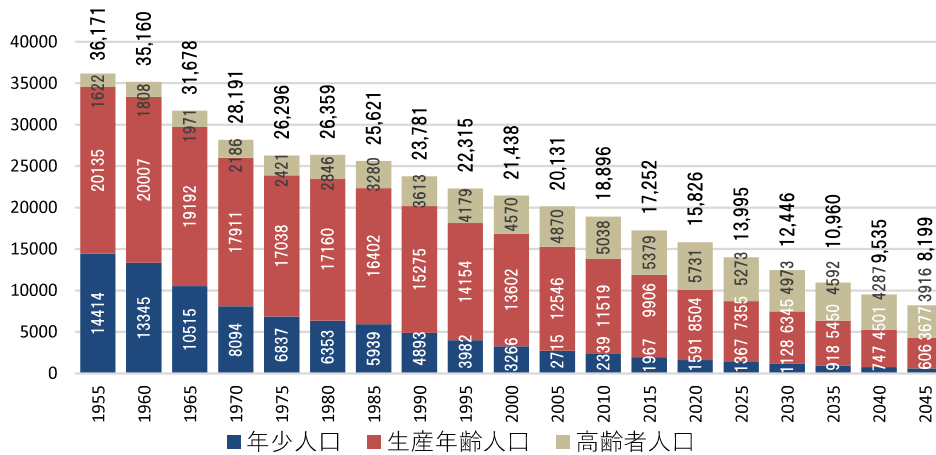


【構成比】



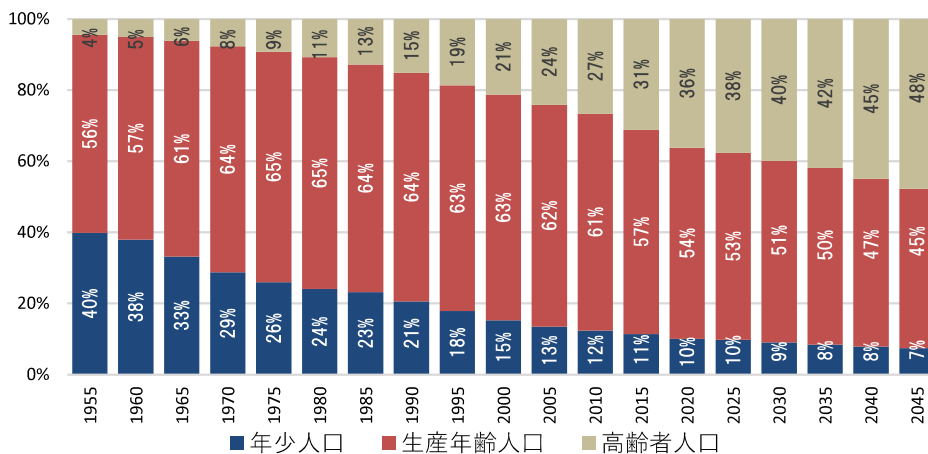
資料：各年国勢調査結果（総務省統計局）、社人研推計値

図3 年少、生産年齢、高齢者、各人口の推移



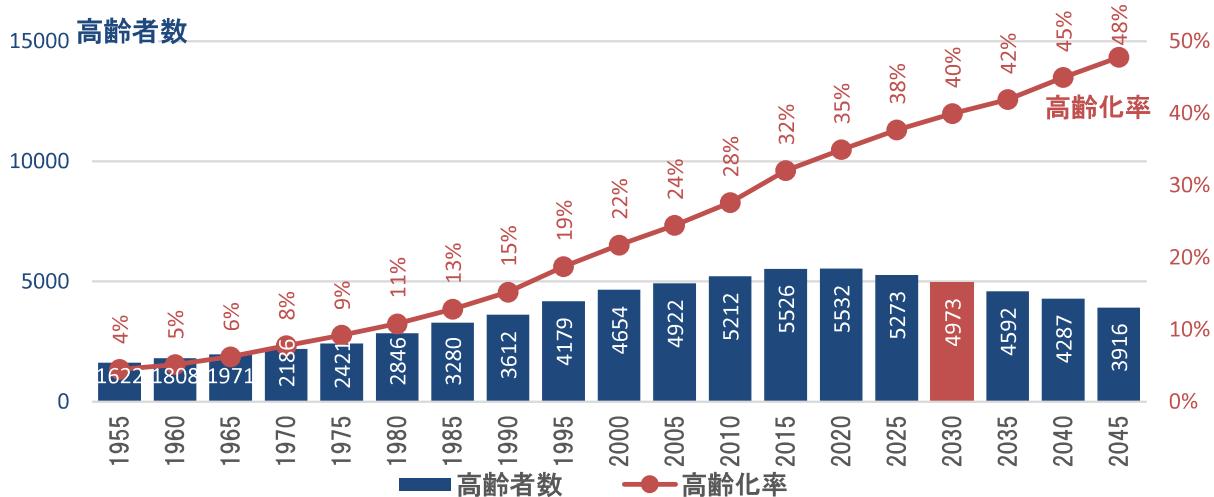
資料：各年国勢調査結果（総務省統計局）、社人研推計値

図4 年少、生産年齢、高齢者、各人口割合の推移



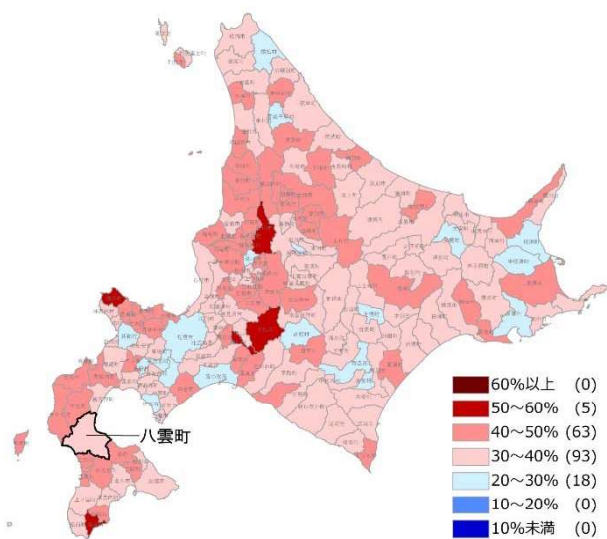
資料：各年国勢調査結果（総務省統計局）、社人研推計値

図5 高齢者数、高齢化率の推移



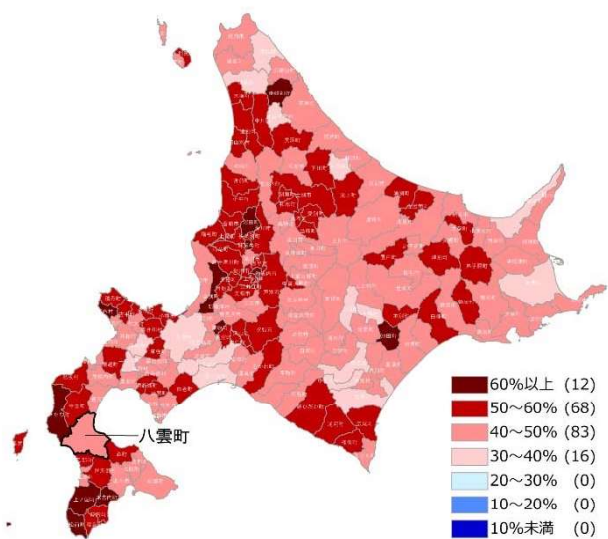
資料：各年国勢調査結果（総務省統計局）、社人研推計値

図6 全道の高齢化率 2020年



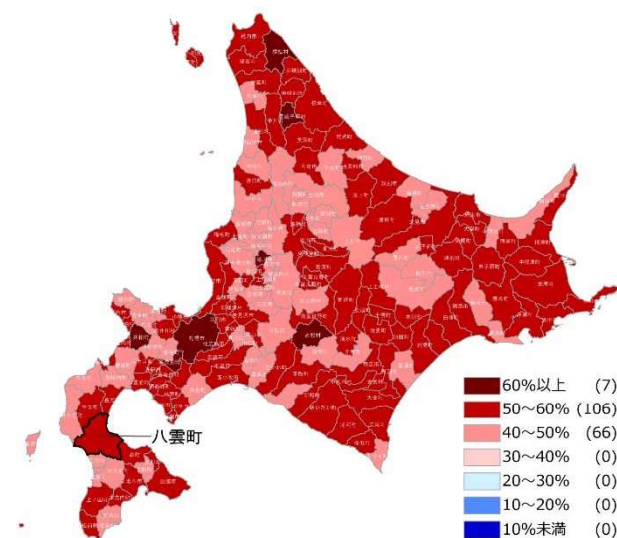
資料：令和2年国勢調査結果（総務省統計局）

図7 全道の高齢化率 2045年



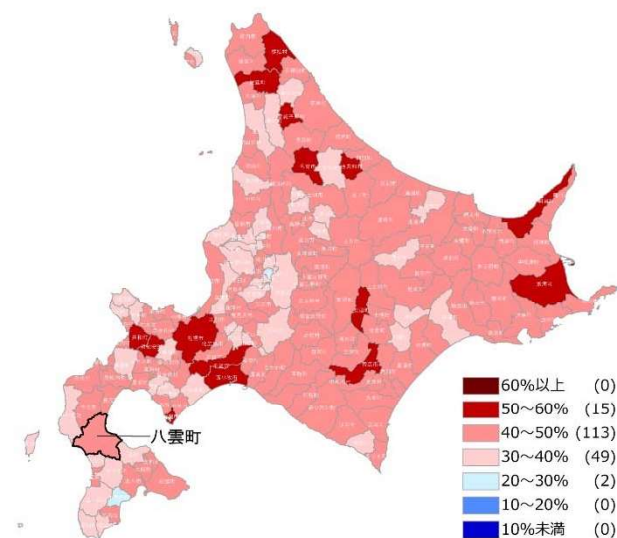
資料：国立社会保障・人口問題研究所推計値 2045年

図8 全道の生産年齢人口割合 2020年



資料：令和2年国勢調査結果（総務省統計局）

図9 全道の生産年齢人口割合 2045年



資料：国立社会保障・人口問題研究所推計値 2045年

2 転入転出状況

- ・ 10代後半～20代前半を除く全ての年代で転出が転入を上回っています。
- ・ 転入者の転入元市町では、札幌市が379人と最も多く、次いで函館市が284人、その他、せたな町64人、森町57人、北斗市53人、長万部町43人など近隣市町からも多数転入しています。
- ・ 転出者の転出先市町では、函館市が476人と最も多く、次いで、札幌市が438人、その他七飯町80人、北斗市73人、持ち町66人など近隣市町にも多数転出しています。

表2 5歳階級別の転入元の上位10市町

	総数	～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85歳～
札幌市	379	23	21	4	4	47	59	69	40	32	37	15	21	10	5	0	1	0	1
函館市	284	8	14	7	4	21	51	35	26	27	24	22	17	13	7	4	1	1	2
せたな町	64	0	3	3	4	9	4	6	7	5	3	5	3	2	2	2	1	1	4
千歳市	60	7	5	0	1	2	2	13	10	7	3	0	0	0	0	0	0	0	0
森町	57	4	2	1	2	6	7	8	4	9	2	2	6	1	0	0	1	1	1
北斗市	53	4	2	4	3	6	5	6	7	8	1	5	2	0	0	0	0	0	0
長万部町	43	1	2	1	0	3	8	6	2	3	4	1	0	1	1	2	2	2	4
室蘭市	31	1	1	1	0	2	6	3	1	2	5	3	2	2	2	0	0	0	0
苫小牧市	27	1	2	0	1	4	1	3	3	2	2	3	3	2	0	0	0	0	0
七飯町	27	0	0	0	1	2	4	4	4	0	2	2	5	1	0	0	0	0	2
道外	351	6	14	9	14	50	79	32	29	26	20	11	18	15	17	4	1	4	2
国外	75	0	0	0	0	22	24	12	4	10	2	1	0	0	0	0	0	0	0
計	1998	71	94	53	60	239	306	257	199	186	141	115	105	64	48	16	7	13	24

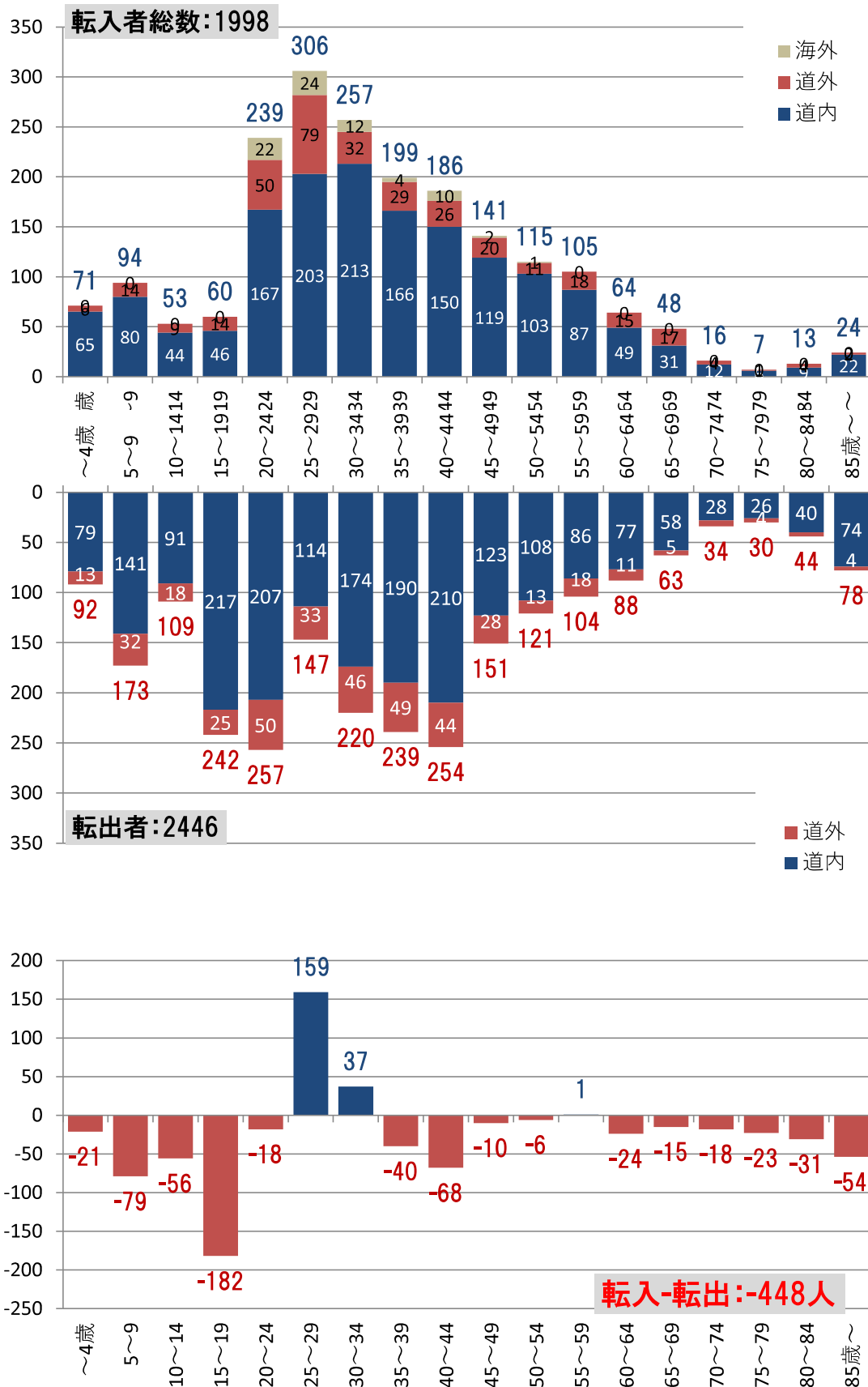
資料：平成27年国勢調査結果（総務省統計局）

表3 5歳階級別の転出先の上位10市町

	総数	～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85歳～
函館市	476	19	32	31	73	35	26	36	37	48	26	33	14	19	18	4	4	9	12
札幌市	438	20	32	16	63	75	25	30	36	32	18	14	14	16	11	10	4	8	14
千歳市	92	3	7	5	11	7	4	7	11	10	12	7	1	2	0	2	2	1	0
七飯町	80	1	9	4	1	5	5	4	12	13	4	7	5	3	2	1	0	2	2
北斗市	73	2	5	4	2	4	3	14	5	11	4	4	3	2	2	1	2	4	1
森町	66	1	1	0	0	4	10	10	4	7	5	5	1	1	5	3	3	1	5
旭川市	44	3	3	1	6	4	2	7	4	4	1	3	2	3	0	0	0	0	1
江差町	44	2	2	0	2	12	1	4	3	8	0	0	1	1	1	0	2	0	5
長万部町	43	1	5	1	0	3	1	7	4	2	2	2	2	2	1	1	1	2	6
苫小牧市	37	1	1	2	3	4	6	4	5	2	5	1	0	0	0	0	1	1	1
江別市	37	1	2	1	12	8	1	2	3	1	0	0	2	1	1	1	1	0	0
道外	403	13	32	18	25	50	33	46	49	44	28	13	18	11	5	6	4	4	4
計	2446	92	173	109	242	257	147	220	239	254	151	121	104	88	63	34	30	44	78

資料：平成27年国勢調査結果（総務省統計局）

図 10 「転入者」、「転出者」、「転入者-転出者」 2010～2015 年 5 か年



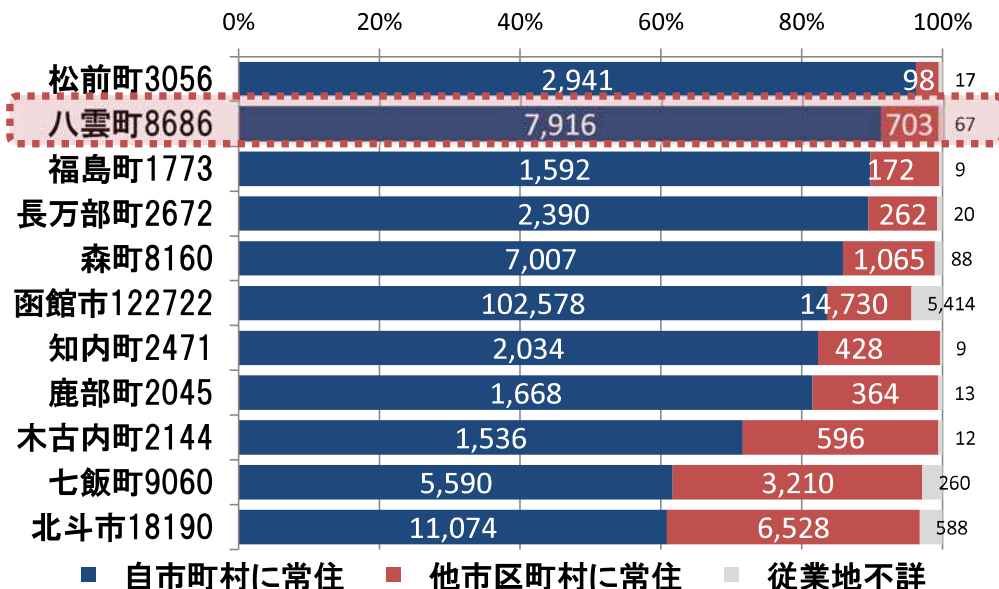
資料：平成 27 年国勢調査結果（総務省統計局）

3 通勤状況

- ・ 町内の事業所等に町外からの通勤者(八雲町で働いているが八雲町に住んでいない人)は 703 人います。一方、逆に八雲町の常住者で町外への通勤者は 593 人で、前者との差は 110 人です。
- ・ 周辺市町との通勤状況では、長万部町、江差町、乙部町を除き、八雲町から町外への通勤者数が町外から八雲町への通勤者数を上回っており、特に森町はその差が 124 人です。
- ・ 八雲町への通勤者 703 人の常住市町のうち、最も多いのが森町の 198 人、次いで長万部町の 93 人、函館市の 87 人、せたな町の 61 人となっています。

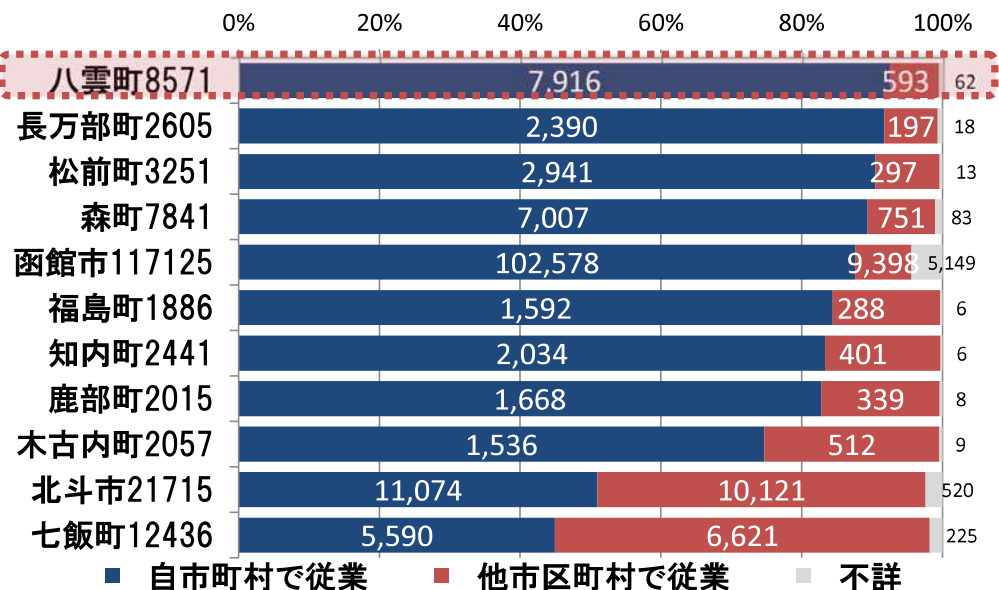
○定住促進においては、大都市圏からの移住に加え、函館市、森町、長万部町など周辺市町からの通勤者がターゲットになると考えられます。

図 11 地元従業員の常住場所



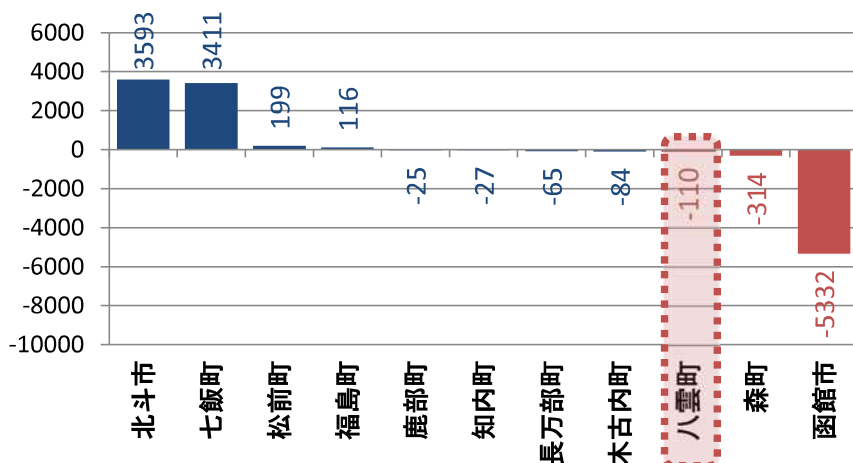
資料：平成 27 年国勢調査結果（総務省統計局）

図 12 地元常住者の従業場所



資料：平成 27 年国勢調査結果（総務省統計局）

図 13 地元から他への通勤者数－他から地元への通勤者数



資料：平成 27 年国勢調査結果（総務省統計局）

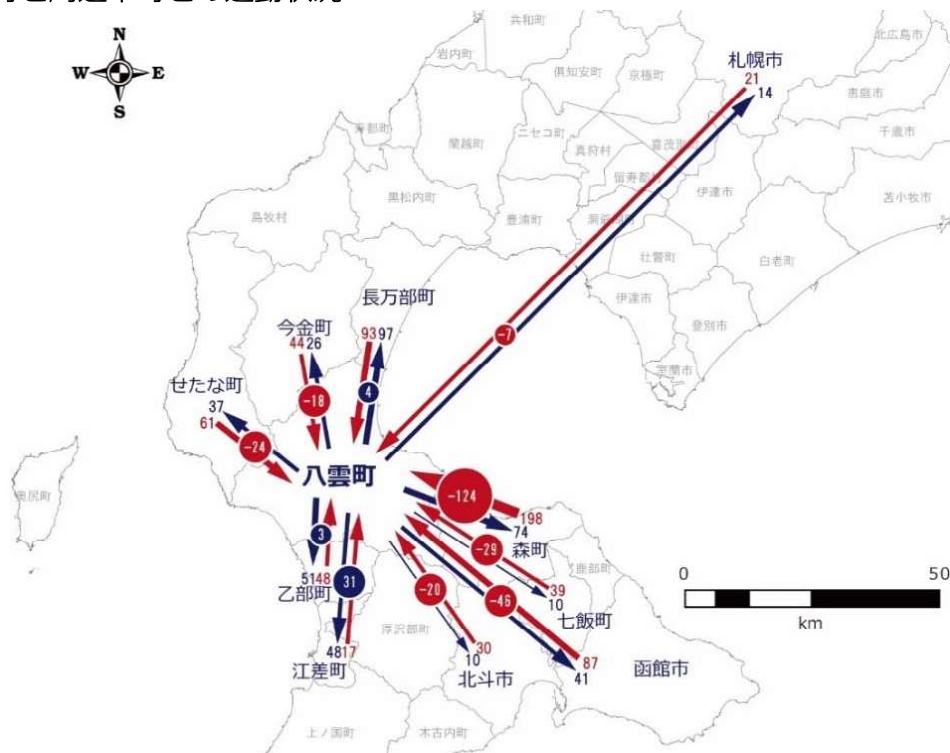
表 4 八雲町への通勤者の常住場所

常住場所	人数
森町	198
長万部町	93
函館市	87
せたな町	61
乙部町	48
今金町	44
七飯町	39
北斗市	30
札幌市	21
江差町	17

表 5 八雲町からの通勤者の通勤場所

常住場所	人数
長万部町	97
森町	74
乙部町	51
江差町	48
函館市	41
せたな町	37
厚沢部町	31
今金町	26
札幌市	14
黒松内町	11

図 14 八雲町と周辺市町との通勤状況

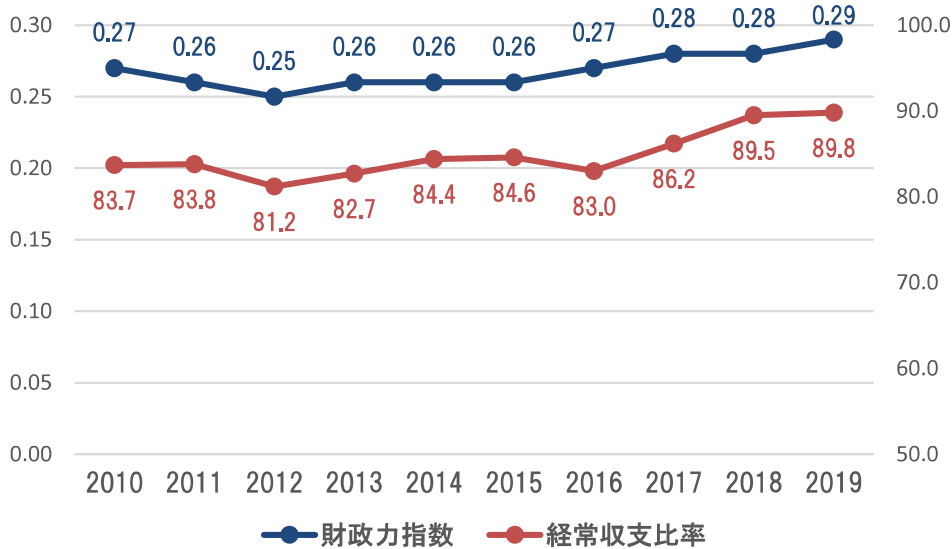


4 財政

・八雲町の財政力指数の推移では、2010年度の0.27から2019年度0.29と微増しており財政上の余裕が若干増加しています。一方、地方公共団体の財政構造の硬直度を表す指標の経常収支比率は上昇し硬直度が増加しています。

○財源の伸びが見込めない中で、町民や事業者、行政が協力してまちづくりを進めることが課題となります。

図 15 財政力指数及び経常収支比率の推移（決算額）



資料：総務省地方公共団体の主要財政指標一覧

5 産業

- ・就業者数は平成 17 年の 9,884 人に対し、平成 27 年の 8,571 人と約 13%減少しています。
- ・産業別人口の平成 17 年と平成 27 年を比べると、林業、不動産業で増加しています。

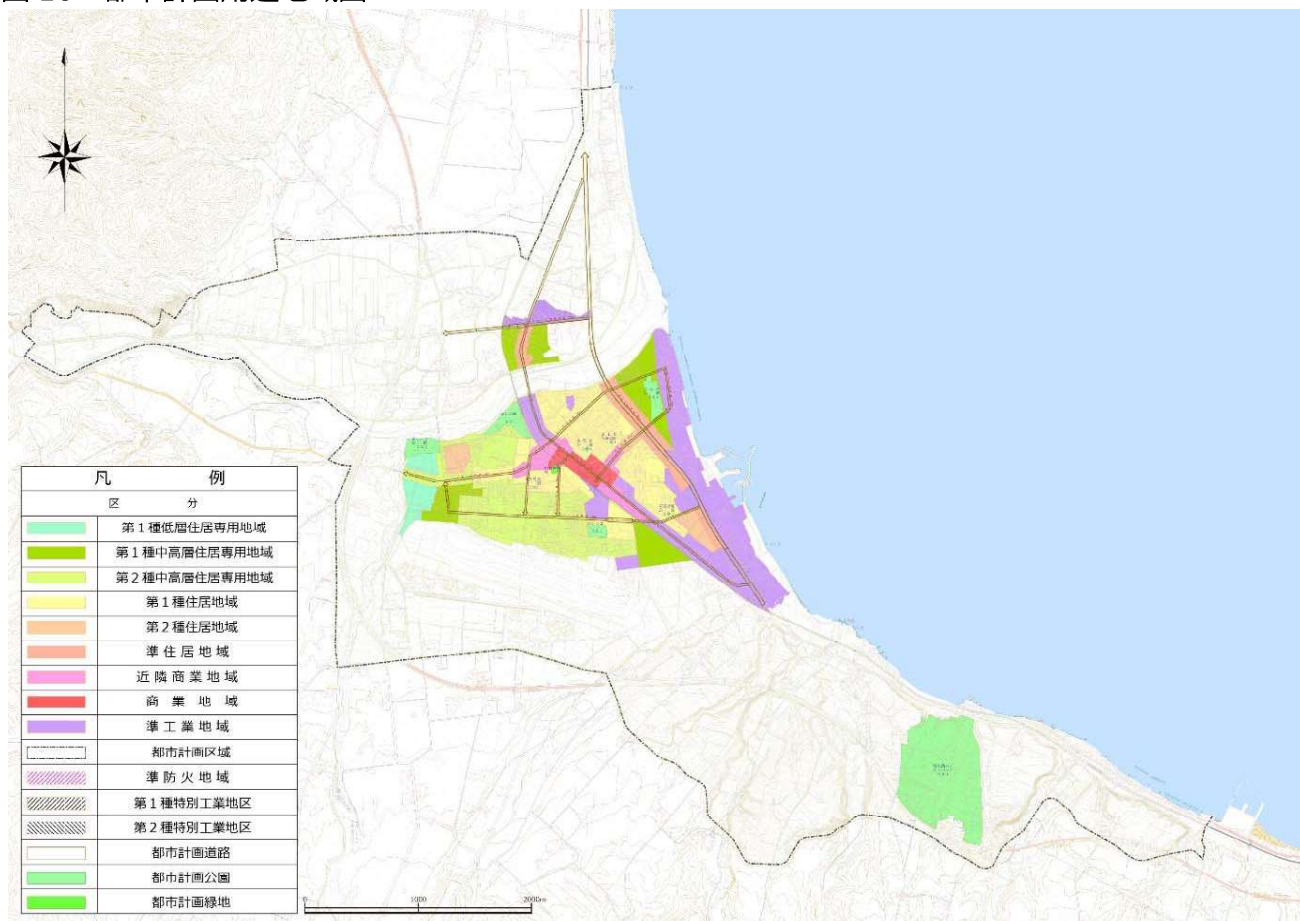
表 6 産業別人口の推移

区 分	平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
総数	9,884	100	9,070	100	8,571	100
第 1 次	1,929	19.5	1,796	19.8	1,773	20.7
農業	787	8.0	765	8.4	705	8.2
林業	67	0.7	92	1.0	103	1.2
漁業	1,075	10.9	939	10.4	965	11.3
第 2 次	2,049	20.7	1,775	19.6	1,625	19.0
鉱業	9	0.1	6	0.1	4	0.0
建設業	1,208	12.2	917	10.1	811	9.5
製造業	832	8.4	852	9.4	810	9.5
第 3 次	5,876	59.4	5,391	59.4	5,132	59.9
電気・ガス・水道業	55	0.6	71	0.8	52	0.6
運輸・通信業	336	3.4	325	3.6	310	3.6
卸売・小売・飲食店業	1,878	19.0	1,623	17.9	1,403	16.4
金融・保険業	145	1.5	112	1.2	93	1.1
不動産業	20	0.2	49	0.5	52	0.6
サービス業	2,759	27.9	2,553	28.1	2,575	30.0
公務	683	6.9	658	7.3	647	7.5
分類不能	30	0.3	108	1.2	41	0.5

資料：各年国勢調査結果（総務省統計局）

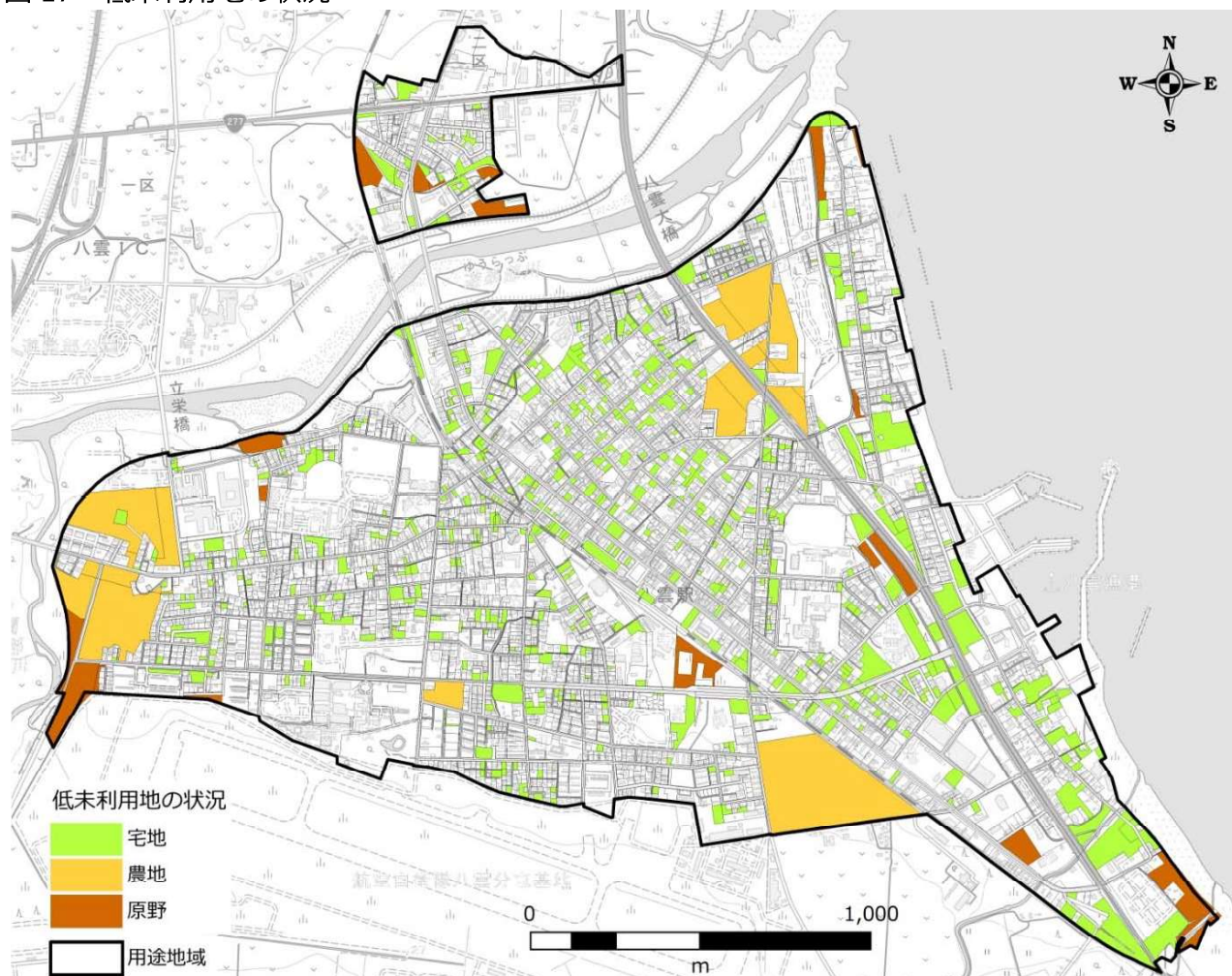
6 土地利用

図 16 都市計画用途地域図



7 低未利用地の状況

図 17 低未利用地の状況



資料：令和2年度八雲町都市計画基礎調査

表 7 低未利用地の状況

(単位：㎡)

分類	面積	内、低未利用地	
		面積	割合
宅地	2,822,617	443,379	(15.7%)
農地	267,847	267,847	(100.0%)
原野	97,212	97,212	(100.0%)
合計	3,187,676	808,438	(25.4%)

資料：令和2年度八雲町都市計画基礎調査

8 交通

表8 町内鉄道駅の1日平均乗降客数

(単位：人)

駅名	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
黒岩駅	6	4	6	4	4	6	6	非公開	非公開
山崎駅	2	6	4	4	2	2	2	非公開	非公開
八雲駅	538	540	500	486	492	442	456	446	418
山越駅	8	10	8	10	2	6	4	非公開	非公開
野田生駅	46	54	60	52	40	36	44	非公開	非公開
落部駅	70	62	60	56	62	46	58	非公開	非公開

※1日平均乗車人数を2倍して乗降客数換算したもの

資料：国土数値情報、八雲町地域公共交通網形成計画（令和2年3月）

表9 路線バスの1日平均乗降客数

(単位：人)

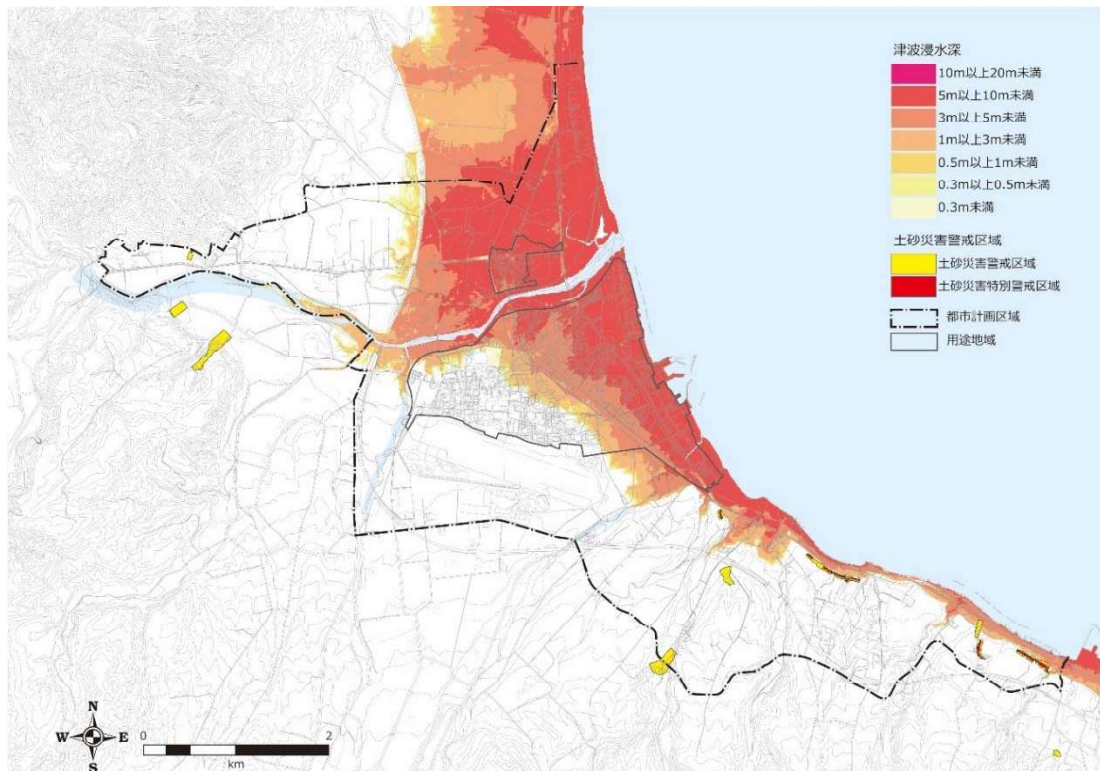
区分	2018年	2019年	2020年
江差八雲線	12	16	18
檜山海岸線（熊石～江差）	3	4	6
檜山海岸線（大成～江差）	12	4	7
函館長万部線	38	55	55
快速瀬棚号	6	7	3
合計	71	86	89

※交通系 IC カードを利用して八雲町内で乗降した利用者数

資料：町提供資料

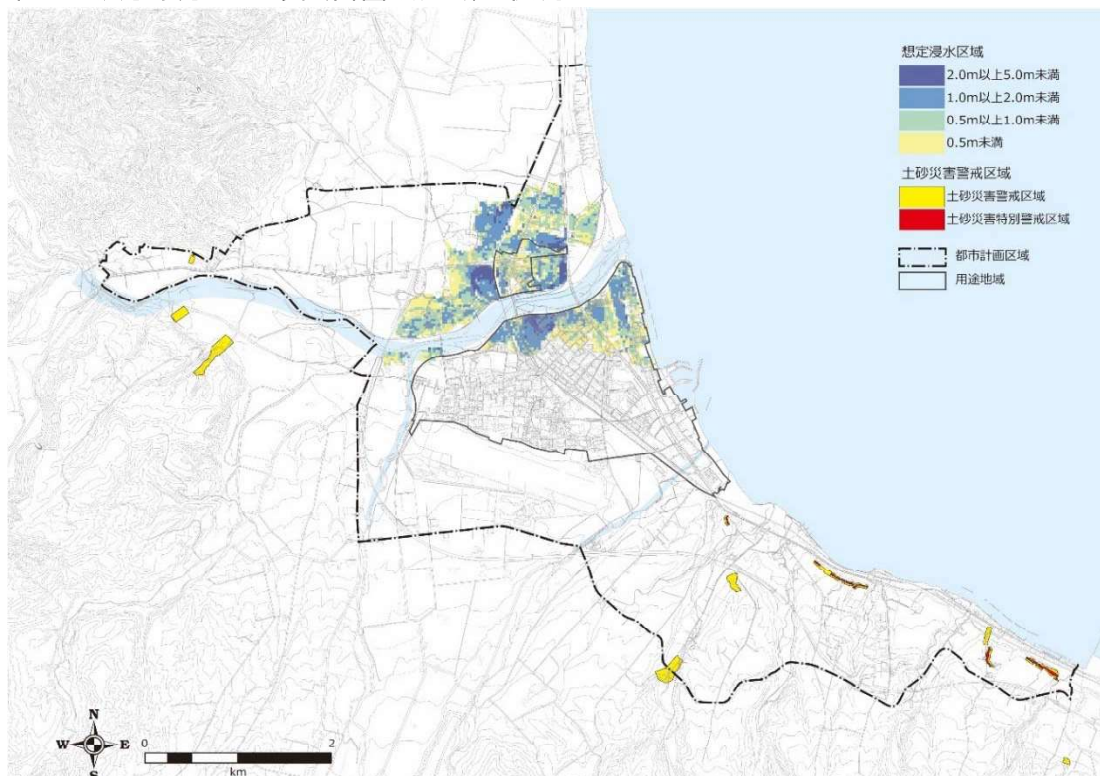
9 防災

図 18 津波浸水・土砂災害警戒区域の状況



資料：日本海沿岸の津波浸水想定公表資料、北海道土砂災害警戒情報システム

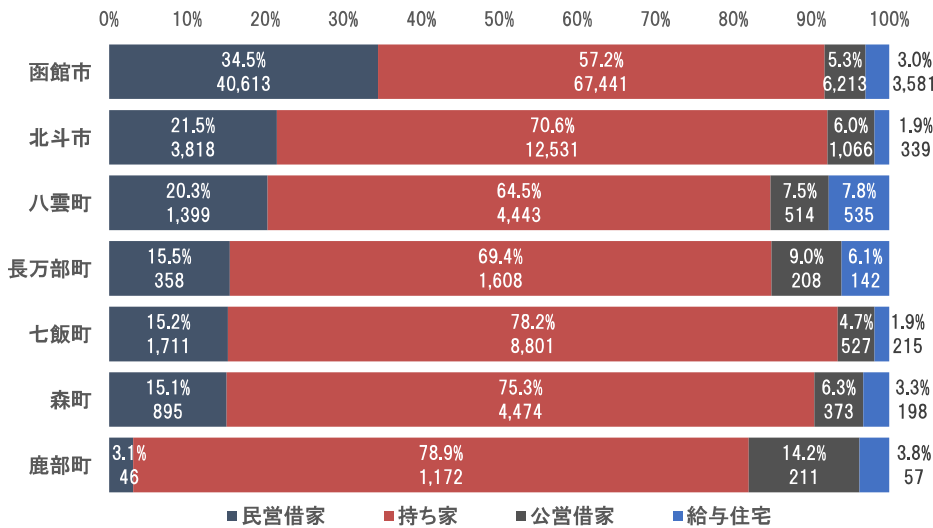
図 19 洪水浸水・土砂災害警戒区域の状況



資料：八雲町ハザードマップ、北海道土砂災害警戒情報システム

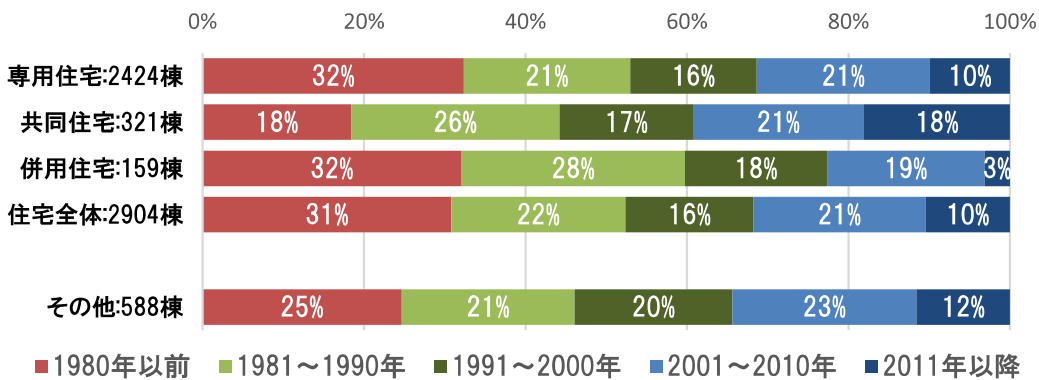
10 住宅

図 20 八雲町周辺市町の住宅所有関係別世帯数



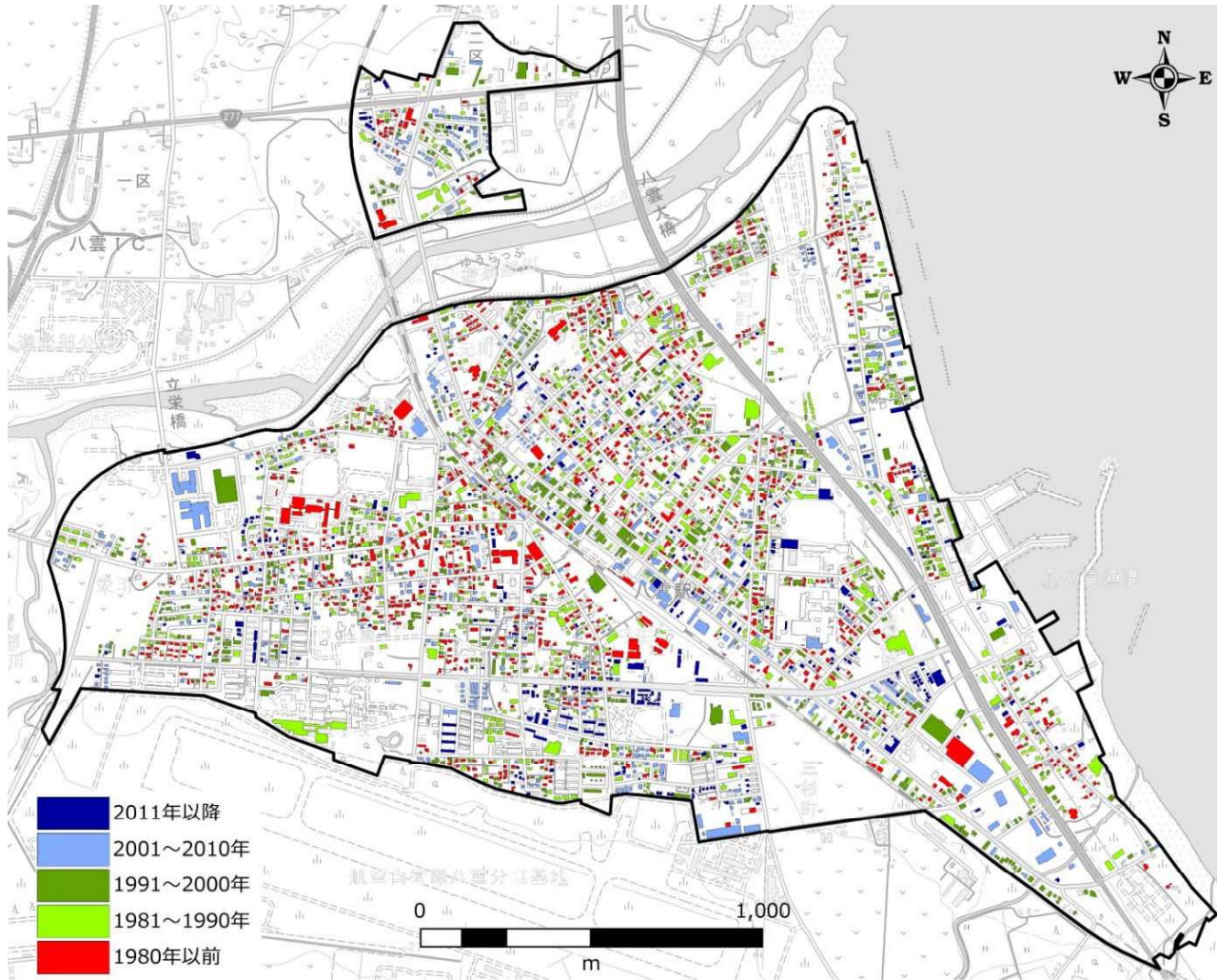
資料：令和2年国勢調査結果（総務省統計局）

図 21 建物用途別の建築年代別状況



資料：令和2年度八雲町都市計画基礎調査

図 22 建築年代別建物状況



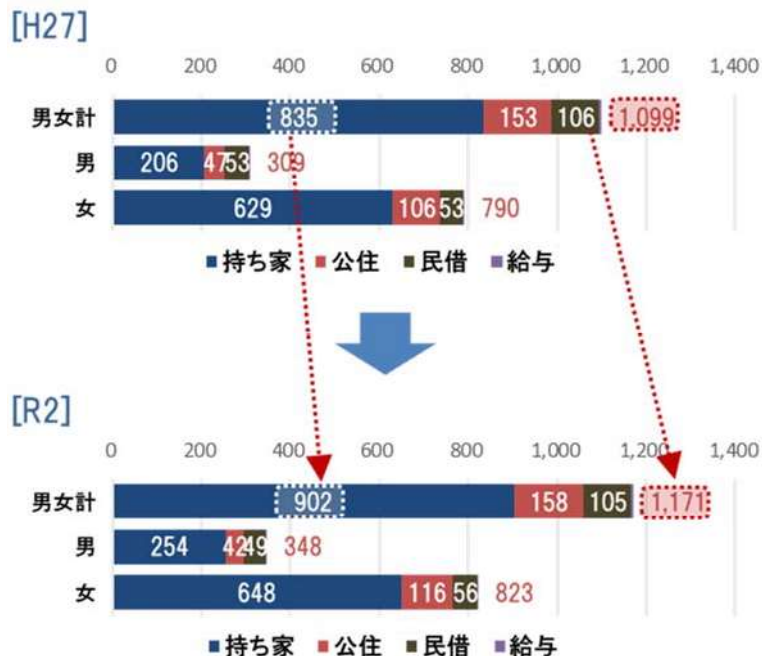
資料：令和2年度八雲町都市計画基礎調査

1.1 空き家状況

- ・八雲町は今後高齢化の急激な進行により、戸建住宅の空き家が大量に発生することが想定されます。
- ・今後、空き家になる可能性が大きい戸建住宅の高齢単身世帯は、平成27年の835世帯から令和2年の902世帯と8%増加しています。
- ・近い将来、空き家になる可能性が大きい戸建住宅の高齢夫婦のみ世帯（夫婦とも65歳以上）は、平成27年の777世帯から令和2年の813世帯と5%増加しています。

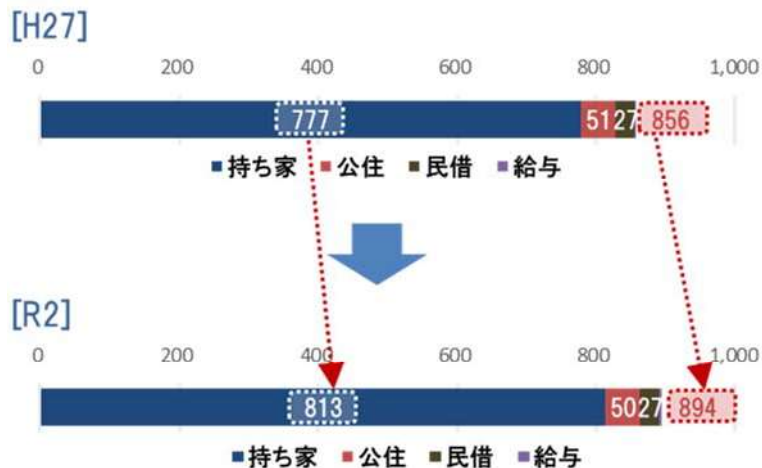
○新たな転入者による定住人口促進のため、今後大量に発生する空き家を中古住宅市場に流通させる施策などの検討が必要です。

図23 高齢単身世帯の住宅所有



資料：平成27年、令和2年国勢調査結果（総務省統計局）

図24 高齢夫婦のみ世帯（夫婦とも65歳以上）の住宅所有



資料：平成27年、令和2年国勢調査結果（総務省統計局）

資料 2. 八雲町の都市計画

1 用途地域

表 10 八雲町の用途地域区分

区 分	面積 (ha)	建ぺい率 (%)	容積率 (%)
第 1 種低層住居専用地域	約 14	50 以下	100 以下
第 1 種中高層住居専用地域	約 49	60 "	200 "
第 2 種中高層住居専用地域	約 89	60 "	200 "
第 1 種住居地域	約 89	60 "	200 "
第 2 種住居地域	約 13	60 "	200 "
準住居地域	約 23	60 "	200 "
近隣商業地域	約 15	80 "	300 "
商業地域	約 11	80 "	400 "
準工業地域	約 105	60 "	200 "
合 計	約 408		

資料：平成 28 年 3 月 八雲町都市計画図

2 準防火地域

表 11 八雲町の準防火地域

種類	位置	面積
準防火地域	商業地域・近隣商業地域	約 26.0a

資料：北海道の都市計画（令和 3 年 3 月 31 日）

3 特別工業地区

表 12 八雲町の特別工業地区

種類	位置	面積
特別工業地区	第 1 種 準工業地域	約 1.6ha
	第 2 種 準工業地域	約 6.3ha

資料：北海道の都市計画（令和 3 年 3 月 31 日）

4 都市施設（都市計画事業）

① 都市計画道路（街路）

表 13 八雲町の都市計画道路

種別	都市計画道路名称		都市計画決定			進捗状況(令和3年3月現在)			
	道路番号	路線名称	主な幅員 (m)	延長 (m)	決定権者	概成済 延長 (m)	改良済 延長 (m)	舗装済 延長 (m)	進捗率 (%)
幹線街路	3. 2. 1	内浦通	30	4,480	国		4,480	4,480	100.0
	3. 4. 2	出雲通	18	2,520	北海道		1,300	1,300	51.6
	3. 4. 3	住初通	16	1,140	八雲町		0	0	0.0
	3. 4. 4	富士見通	16	920	北海道・八雲町		630	630	68.5
	3. 4. 5	宮園通	16	1,970	八雲町		0	0	0.0
	3. 4. 6	末広通	16	570	八雲町		0	0	0.0
	3. 4. 7	本町大通	16	4,680	北海道	300	4,380	4,380	93.6
	3. 4. 8	八雲・熊石通	20	1,300	国		1,300	1,300	100.0
	3. 4. 9	豊河通	16	370	八雲町		0	0	0.0
合計				16,280		300	12,090	12,090	74.3

資料：都市計画道路路線別台帳（令和3年3月31日現在）北海道建設部都市環境課

② 都市計画公園

表 14 八雲町の都市計画公園

種別	番号	公園名	面積 (ha)
街区公園	2. 2. 1	未広児童公園	約 0.05
	2. 2. 2	東雲児童公園	約 0.08
	2. 2. 3	富士見児童公園	約 0.05
	2. 2. 4	東児童公園	約 0.16
近隣公園	3. 3. 1	さらんべ公園	約 3.70
	3. 3. 3	相生公園	約 2.00
	3. 3. 4	ひらの公園	約 3.60
地区公園	4. 4. 1	住初公園	約 5.90
広域公園	9. 6. 1	噴火湾パノラマパーク	約 62.70
緑地	1 0 1. 0. 1	梅村庭園緑地	約 0.40
合計			約 78.64

資料：平成 28 年 3 月 八雲町都市計画図

表 15 八雲町の都市公園（都市計画公園を除く）

種別	公園名	面積 (ha)
街区公園	あおば児童公園	約 0.07
	ぼぶら児童公園	約 0.09
	すずらん児童公園	約 0.06
	のぼら児童公園	約 0.03
	こまどり児童公園	約 0.05
	かつら児童公園	約 0.11
近隣公園	シビック公園	約 2.56
	遊楽部公園	約 11.00
運動公園	八雲スポーツ公園	約 7.21
風致公園	立岩公園	約 2.58
都市緑地	遊楽部河畔公園	約 11.29
合計		約 35.06

資料：八雲町都市公園台帳（令和 2 年 3 月 31 日時点）

③ 下水道

表 16 下水道の状況

計画			供用		
計画排水区域 (ha)	計画処理区域 (ha)	計画下水管渠 (m)	供用排水区域 (ha)	処理区域 (ha)	下水管渠 (m)
404	404	4,500	378	378	4,500

資料：北海道の都市計画（令和3年3月31日）

資料3. アンケート調査結果概要

1 調査の概要

(1) 調査目的

町民の意識・要望等を把握し、「八雲町都市計画マスタープラン」策定の参考とすることを目的とします。

(2) 調査概要

- ・ 調査時点 : 令和3年9月1日現在
- ・ 調査期限 : 令和3年10月18日
- ・ 配布・回収方法 : 配布・回収ともに郵送
- ・ 調査対象 : 年代別、居住地域別に住民基本台帳より無作為に抽出(1,200人)

(3) 回収状況

調査票の回収数は418票であり、回収率は34.8%です。地域別に回収率をみると、熊石地区が最も高く42.3%、次いで市街地が34.4%、落部地区が31.5%、郊外が31.3%となっています。

地域別回収率

	配布数	回収数	回収率
市街地	732	252	34.4%
郊外	80	25	31.3%
落部地区	232	73	31.5%
熊石地区	156	66	42.3%
地区不明	—	2	—
合計	1,200	418	34.8%

(4) 質問項目

質問項目	質問内容
質問1 あなた自身のことについて	・性別・年齢・職業・家族構成・通算居住年数・居住地域・住宅の種類
質問2 交通手段について	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用車の有無(台数) ・最寄りのJR駅までの所要時間 ・JRを利用する頻度 ・最もよく利用する交通手段 ・最寄りのバス停までの所要時間 ・バスを利用する頻度
質問3 八雲町での暮らしについて	<ul style="list-style-type: none"> ・居住環境で重要と考えるもの ・住み続けたい/他へ移りたいと思う理由 ・生活環境の満足度(項目別・総合的) ・今後の居留意向 ・災害時に不安を感じる事
質問4 まちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを進めるために重要と思う対策 ・持続的な発展のためのまちづくりについて
質問5 自由記入	

(5) 調査データの表示について

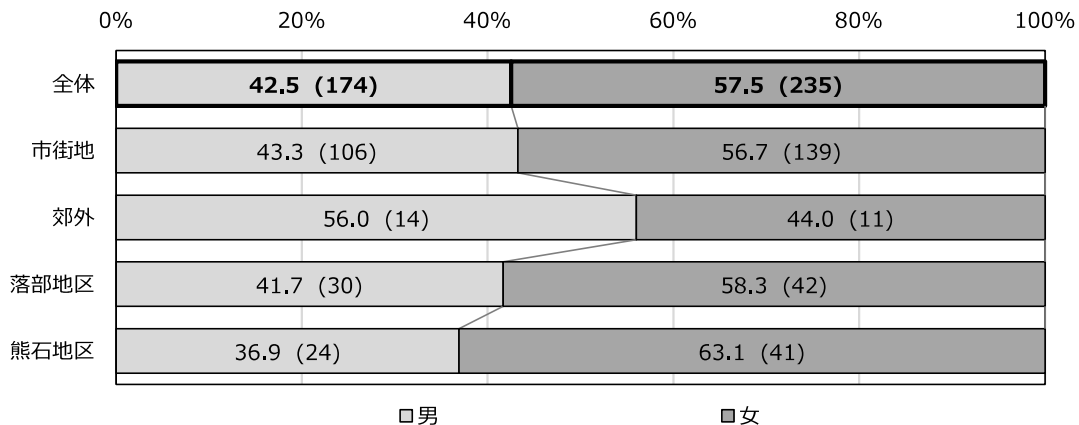
- ・ グラフに表示されているn値は、有効回答者数です。
- ・ 集計結果の%表示は、小数点第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- ・ 設問ごとの集計は、無回答を除いているため、有効回答数の合計が、全体の有効回答数と合致しないことがあります。

2 あなた自身のことについて

(1) 性別

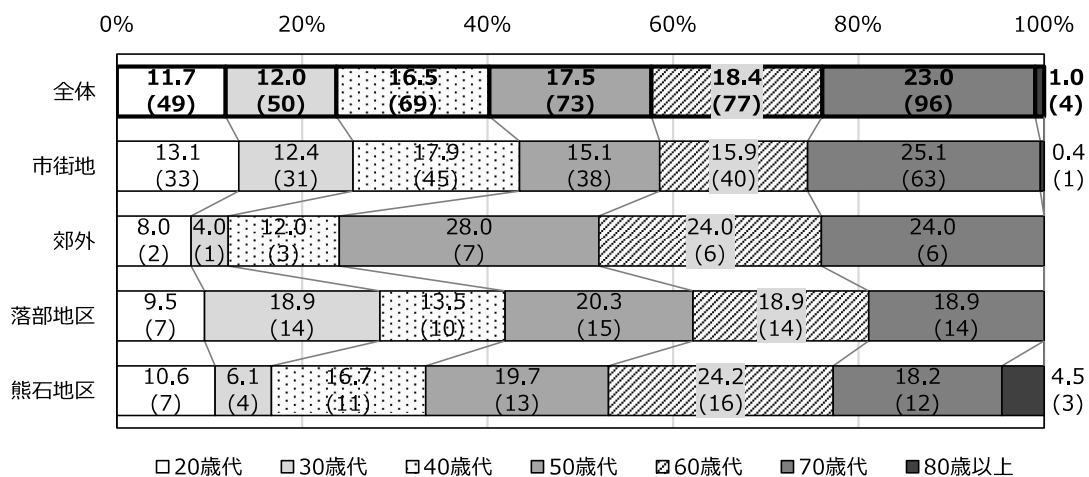
回答者の性別は、「男」が42.5%、「女」が57.5%です。

地域別にみると、郊外のみ「男」56.0%が「女」44.0%を上回っています。



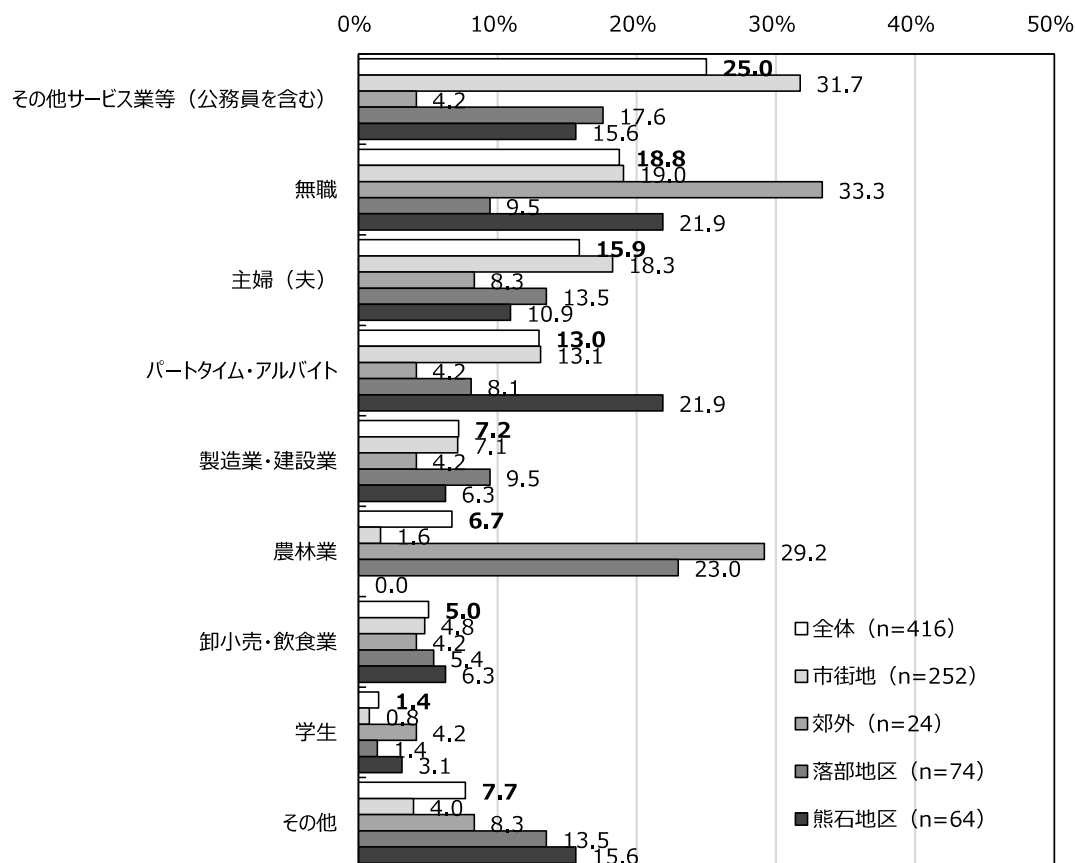
(2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳代」が23.0%で最も高く、以下「60歳代」が18.4%、「50歳代」が17.5%、「40歳代」が16.5%です。



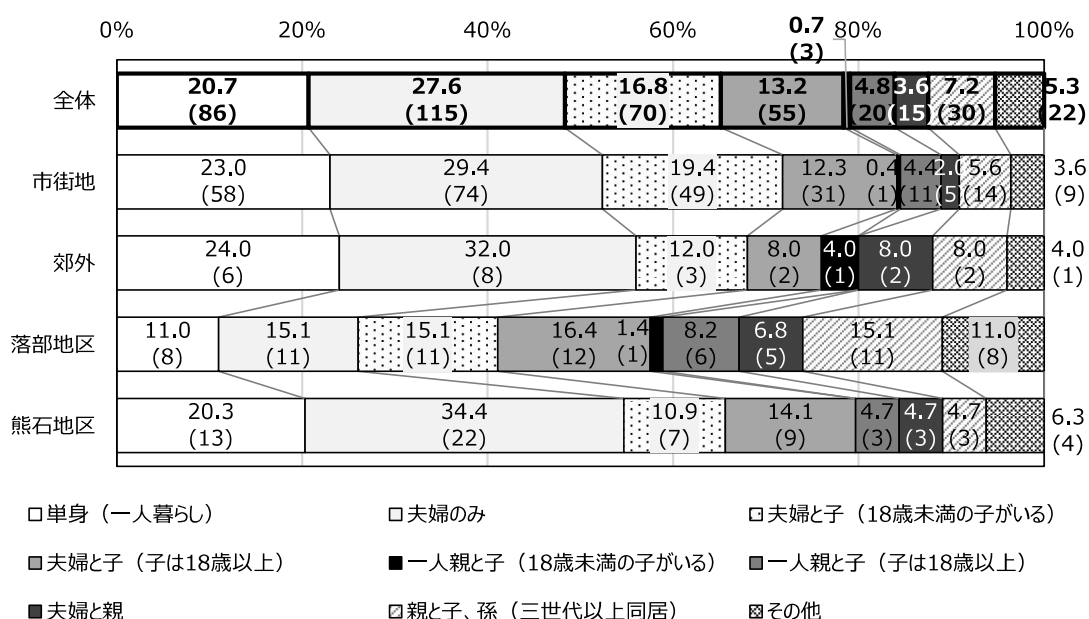
(3) 職業（複数回答）

回答者の職業は、「その他サービス業等（公務員を含む）」が25.0%と最も多く、以下「無職」18.8%、「主婦（夫）」15.9%、「パートタイム・アルバイト」13.0%です。



(4) 家族構成

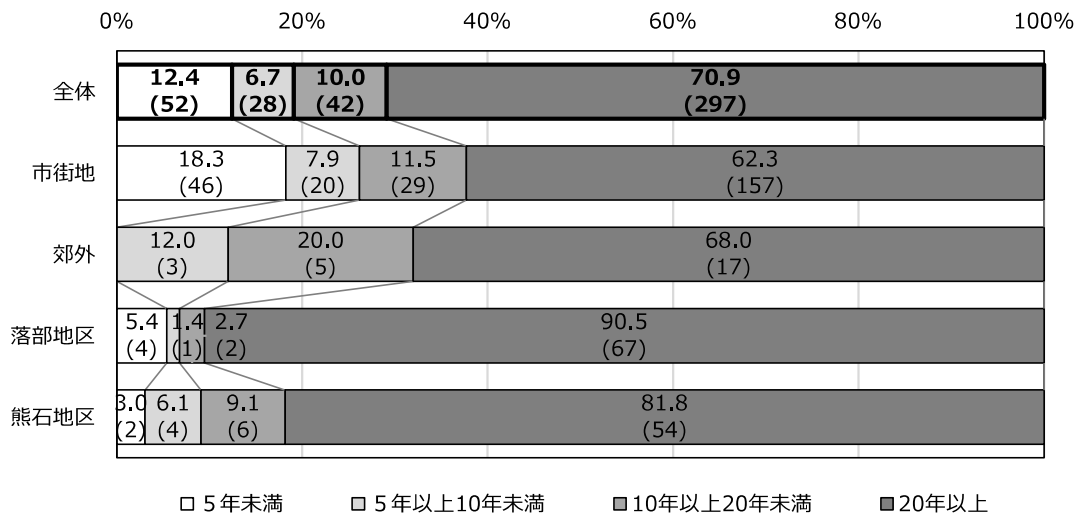
回答者の家族構成は、「夫婦のみ」が27.6%と最も多く、以下「単身（一人暮らし）」20.7%、「夫婦と子（18歳未満の子がいる）」16.8%、「夫婦と子（子は18歳以上）」13.2%です。



(5) 八雲町での通算居住年数

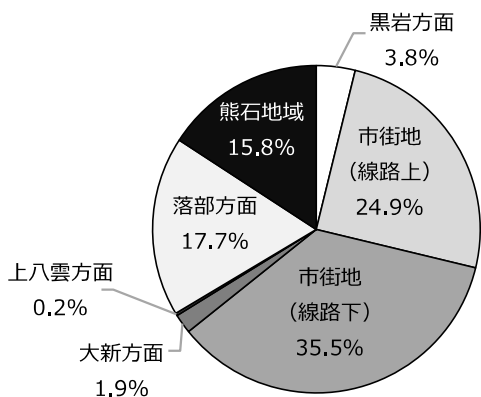
八雲町に住み始めてからの通算居住年数は、「20年以上」が70.9%と7割を超え、以下「5年未満」が12.4%、「10年以上20年未満」が10.0%、「5年以上10年未満」が6.7%となっています。

地域別にみても、全ての地域で「20年以上」が6割以上を占めています。



(6) 居住地域

回答者の居住地域は、「市街地（線路上）」24.9%、「市街地（線路下）」35.5%と「市街地」が6割を占め、以下「落部方面」17.7%、「熊石地域」15.8%、「黒岩方面」3.8%、「大新方面」1.9%、「上八雲方面」0.2%です。

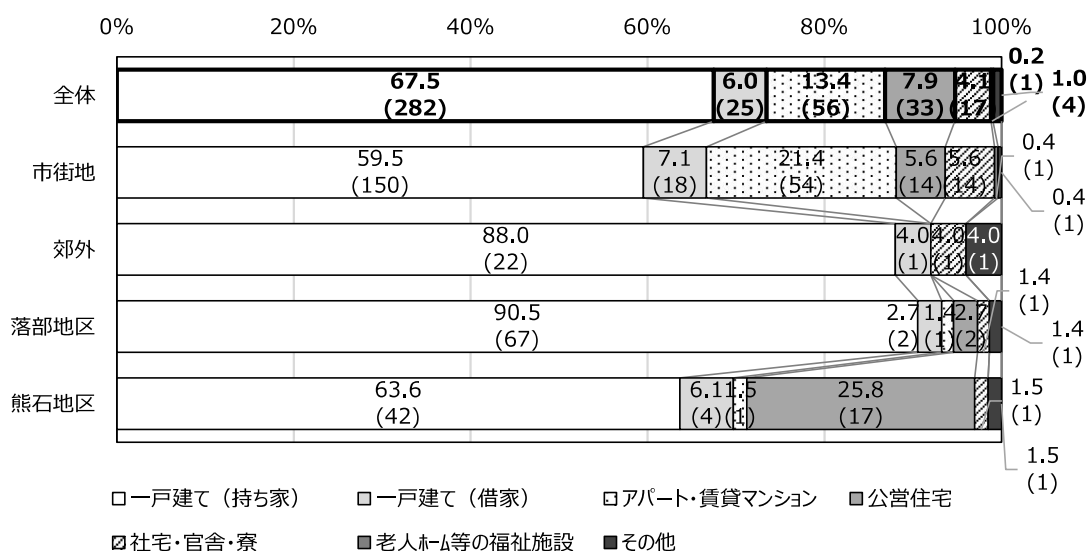


	件数	構成比
黒岩方面	16	3.8%
市街地 (線路上)	104	24.9%
市街地 (線路下)	148	35.5%
大新方面	8	1.9%
上八雲方面	1	0.2%
落部方面	74	17.7%
熊石地域	66	15.8%
回答者数	417	100.0%

(7) 住宅の種類

回答者の住まいは、「一戸建て（持ち家）」が67.5%と6割を超え、以下「アパート・賃貸マンション」が13.4%、「公営住宅」が7.9%、「一戸建て（借家）」が6.0%です。

地域別にみると「一戸建て（持ち家）」の構成比は落部地区が90.5%、郊外が88.0%と全ての地域で半数を超え、「公営住宅」の構成比は、熊石地区が25.8%となっています。

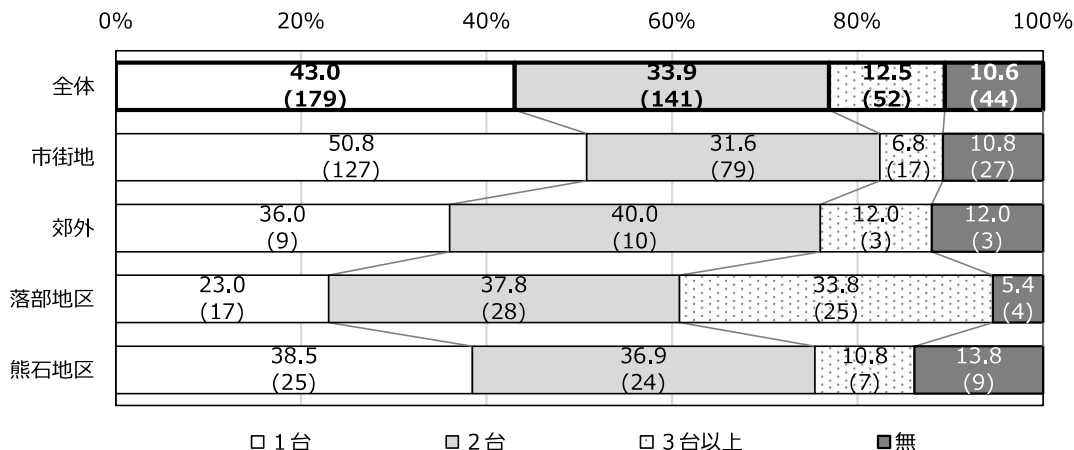


3 交通手段について

(1) 自家用車の有無（台数）

回答者の自動車の保有状況は、「有」89.4%、「無」10.6%となっています。2台以上所有している世帯もあり平均保有台数は1.54台/世帯となっています。

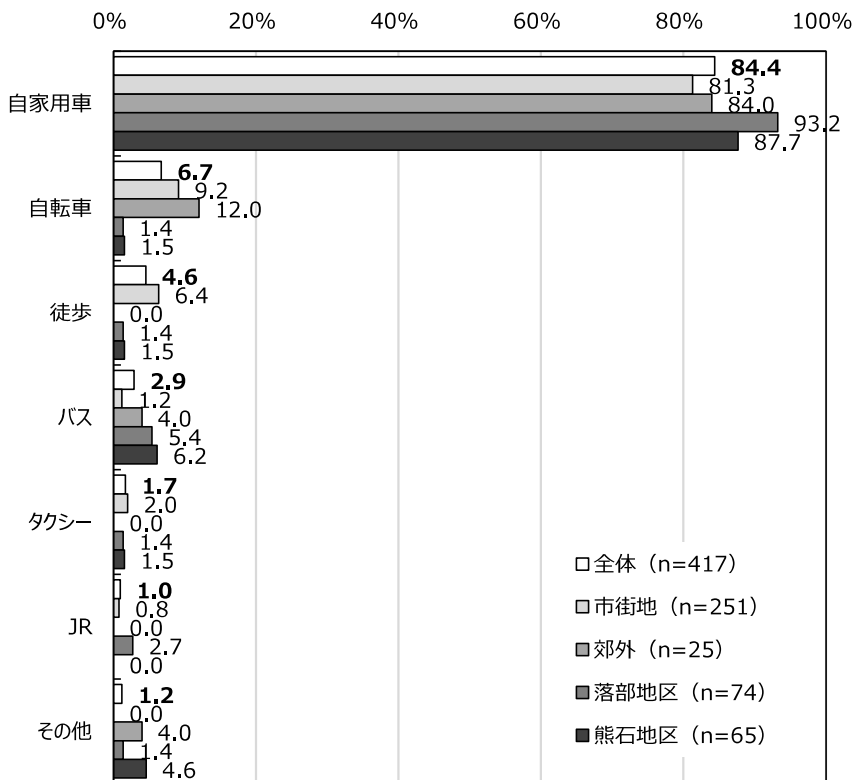
地域別にみると、市街地は「有」89.2%、平均保有台数1.35台/世帯、郊外は「有」88.0%、平均保有台数1.64台/世帯、落部地区は「有」94.6%、平均保有台数2.19台/世帯、熊石地区は「有」86.2%、平均保有台数1.49台/世帯となっています。



(2) 利用する交通手段（複数回答）

回答者の最もよく利用する交通手段は、「自家用車」が84.4%ととりわけ多く、以下「自転車」6.7%、「徒歩」4.6%、「バス」2.9%です。

地域別にみても、全ての地域で「自家用車」は8割以上を占めています。

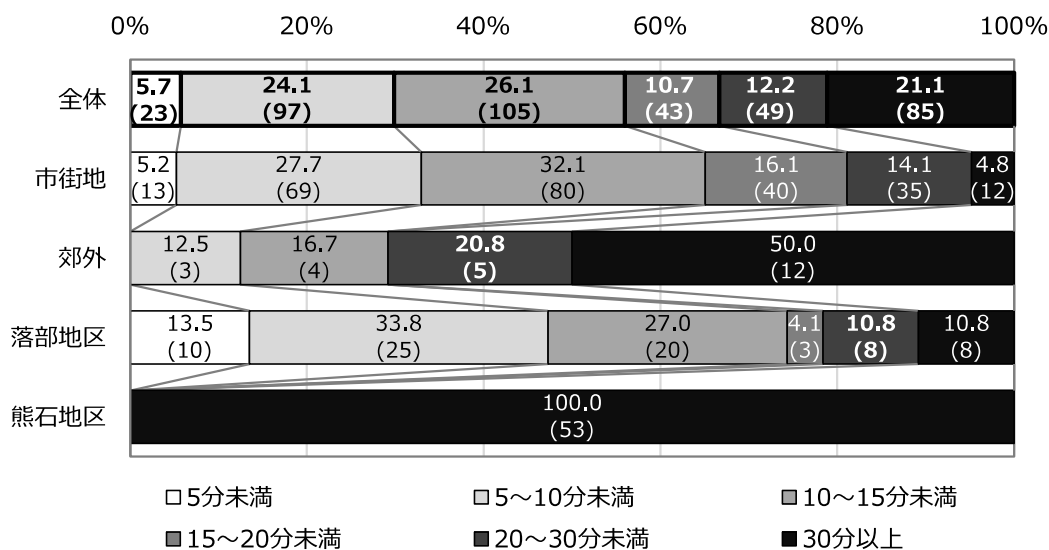


(3) 最寄りの JR 駅までの所要時間（徒歩）

最寄りの JR 駅までの所要時間（徒歩）は、「10～15 分未満」が 26.1%と最も多く、以下、「5～10 分未満」が 24.1%、「30 分以上」が 21.1%、「20～30 分未満」が 12.2%、「15～20 分未満」が 10.7%、「5 分未満」は 5.7%となっています。

また、平均所要時間は全体で 19.7 分です。地域別にみると、落部地区が 14.5 分と最も短く、次いで市街地の 14.7 分、それ以外の地域では 30 分以上かかっています。

※平均所要時間は、「5 分未満」を 2.5 分、「5～10 分未満」を 7.5 分、「10～15 分未満」を 12.5 分、「15～20 分未満」を 17.5 分、「20～30 分未満」を 25 分、「30 分以上」を 45 分と想定し算出

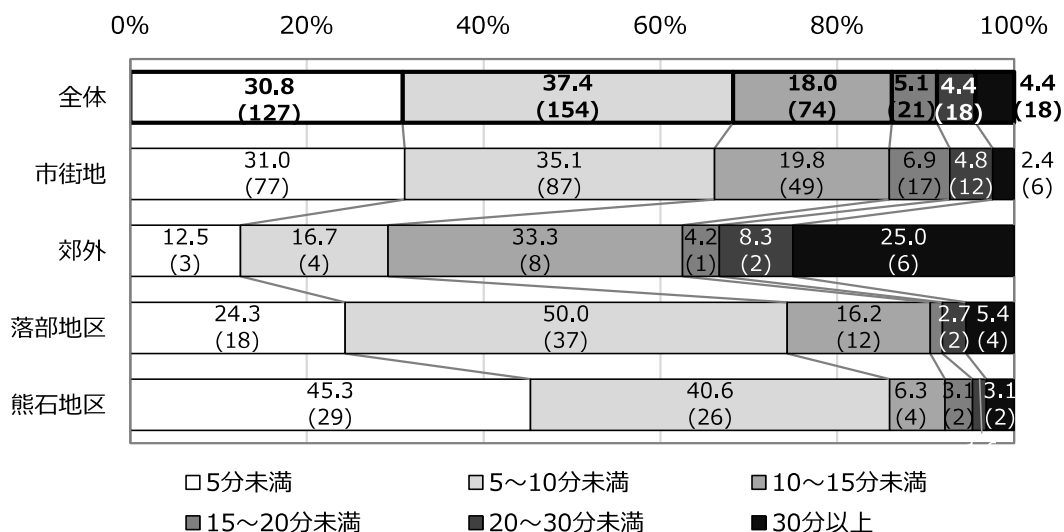


(4) 最寄りのバス停までの所要時間（徒歩）

最寄りのバス停までの所要時間（徒歩）は、「5～10 分未満」が 37.4%と最も多く、以下、「5 分未満」が 30.8%、「10～15 分未満」が 18.0%、「15～20 分未満」が 5.1%、「20～30 分未満」及び「30 分以上」が 4.4%となっています。

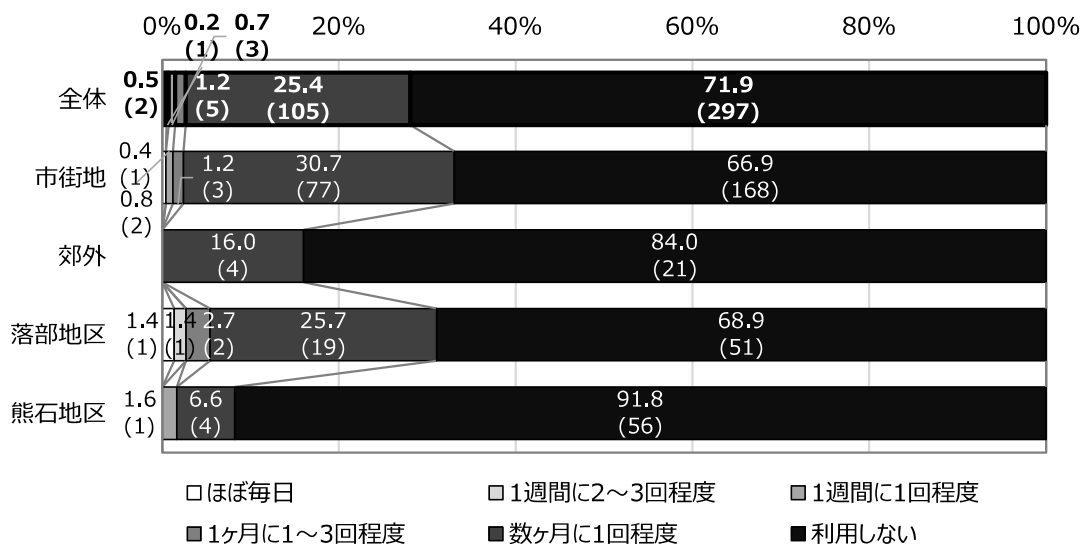
また、平均所要時間は全体で 9.8 分です。地域別にみると、熊石地区が 7.3 分と最も短く、次いで市街地 9.4 分、落部地区 9.7 分、郊外では約 20 分かかっています。

※平均所要時間は、「5 分未満」を 2.5 分、「5～10 分未満」を 7.5 分、「10～15 分未満」を 12.5 分、「15～20 分未満」を 17.5 分、「20～30 分未満」を 25 分、「30 分以上」を 45 分と想定し算出



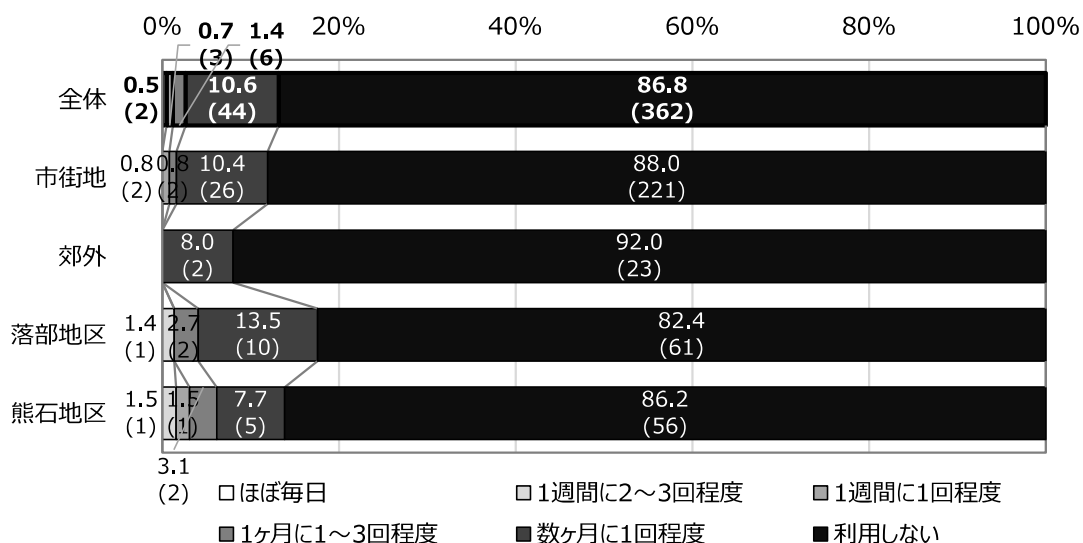
(5) JRの利用頻度

JRの利用頻度は、「利用しない」が71.9%と最も多く、以下、「数ヶ月に1回程度」が25.4%、「1ヶ月に1～3回程度」が1.2%、「1週間に1回程度」が0.7%、「1週間に2～3回程度」が0.2%、「ほぼ毎日」は0.5%となっています。「ほぼ毎日」、「1週間に2～3回程度」、「1週間に1回程度」、「1ヶ月に1～3回」を合わせた定期利用者は2.7%のみです。



(6) バスの利用頻度

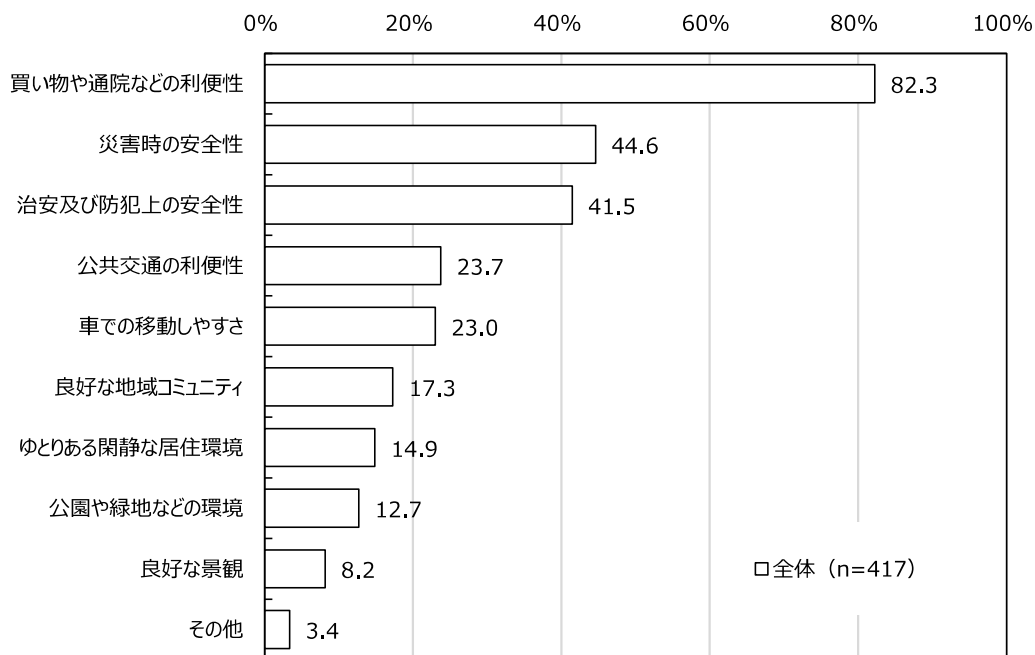
バスの利用頻度は、「利用しない」が86.8%と最も多く、以下、「数ヶ月に1回程度」が10.6%、「1ヶ月に1～3回程度」が1.4%、「1週間に1回程度」が0.7%、「1週間に2～3回程度」が0.5%、「ほぼ毎日」は0.0%となっています。「ほぼ毎日」、「1週間に2～3回程度」、「1週間に1回程度」、「1ヶ月に1～3回」を合わせた定期利用者は2.6%のみです。



4 八雲町での暮らしについて

(1) 居住環境で重要と考えること（複数回答）

居住環境で重要と考えるものは、「買い物や通院などの利便性」が82.3%ととりわけ多く、以下、多い順に、「災害時の安全性」44.6%、「治安及び防犯上の安全性」41.5%となっています。



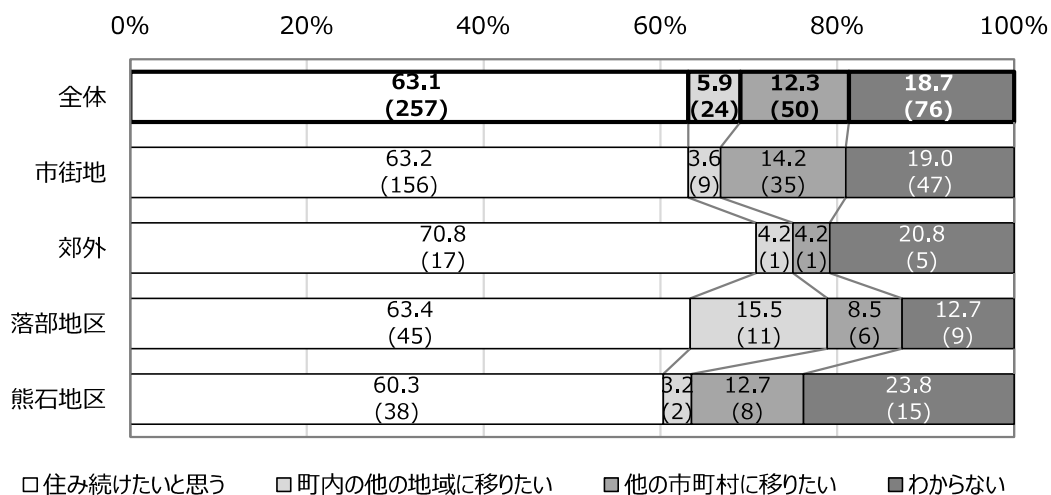
地区	買い物や通院などの利便性	ゆとりある閑静な居住環境	公共交通の利便性	車での移動しやすさ	災害時の安全性	治安及び防犯上の安全性	公園や緑地などの環境	良好な景観	良好な地域コミュニティ	その他	回答者数
市街地	202 80.5%	46 18.3%	46 18.3%	45 17.9%	113 45.0%	123 49.0%	39 15.5%	20 8.0%	44 17.5%	9 3.6%	251 100.0%
郊外	22 88.0%	2 8.0%	7 28.0%	7 28.0%	10 40.0%	8 32.0%	3 12.0%	2 8.0%	3 12.0%	0 0.0%	25 100.0%
落部地区	62 83.8%	9 12.2%	23 31.1%	21 28.4%	30 40.5%	28 37.8%	9 12.2%	9 12.2%	13 17.6%	1 1.4%	74 100.0%
熊石地区	56 86.2%	4 6.2%	22 33.8%	23 35.4%	32 49.2%	14 21.5%	2 3.1%	3 4.6%	12 18.5%	4 6.2%	65 100.0%
地区不明	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
合計	343 82.3%	62 14.9%	99 23.7%	96 23.0%	186 44.6%	173 41.5%	53 12.7%	34 8.2%	72 17.3%	14 3.4%	417 100.0%

その他の内容

- ・ 除雪 (2)
- ・ 買物
- ・ 通信インフラの整備
- ・ 歩道の数
- ・ 働く場所がたくさんある事
- ・ 子供を育てやすい環境
- ・ マイナンバーカードでのデジタル行財政サービスの向上
- ・ 安心な老後、特に医療について
- ・ 自然環境保全 (放置ゴミ多い)
- ・ 二人の親と自家がここにあるから通勤する
- ・ 免許返納後の交通手段
- ・ 特になし/何もない

(2) 今後の居留意向

今後の居留意向は、「住み続けたいと思う」が63.1%と6割強を占め、次いで、「わからない」18.7%、「他の市町村へ移りたい」12.3%、「町内の他の地域に移りたい」5.9%となっています。「住み続けたいと思う」と「町内の他の地域に移りたい」を合わせた町内での居留意向は69.0%です。



その他の市町村

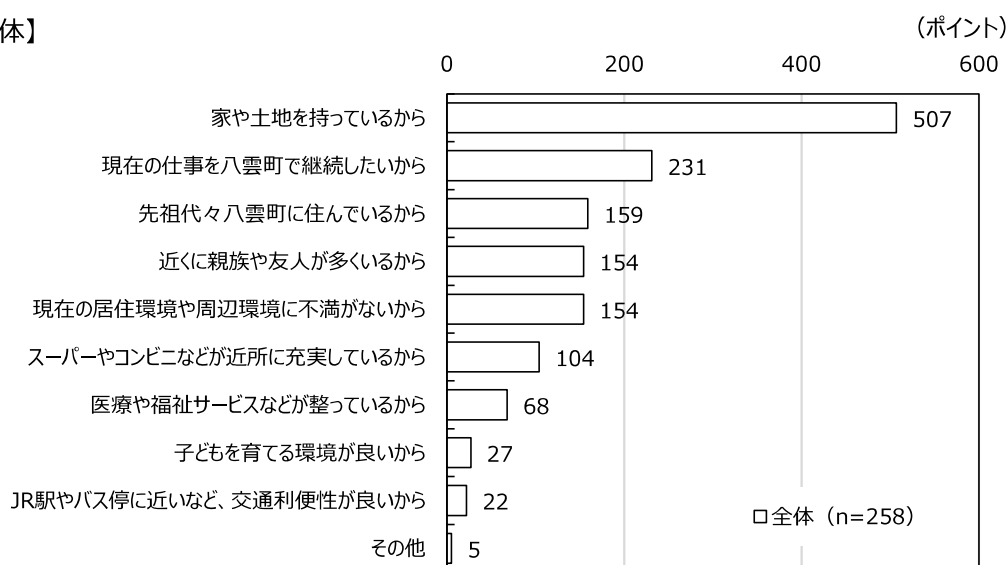
- ・ 札幌市 (17)
- ・ 札幌市、東京都
- ・ 本州地域又は札幌市
- ・ 千歳市か伊達市
- ・ 函館市 (4)
- ・ 千歳市、札幌市
- ・ 乙部町か厚沢部町
- ・ 子供達がいる町
- ・ 函館市、札幌市 (2)
- ・ 函館市、札幌市、森町
- ・ 七飯町

(3) 住み続けたいと思う理由 ((2) で「1」回答者)

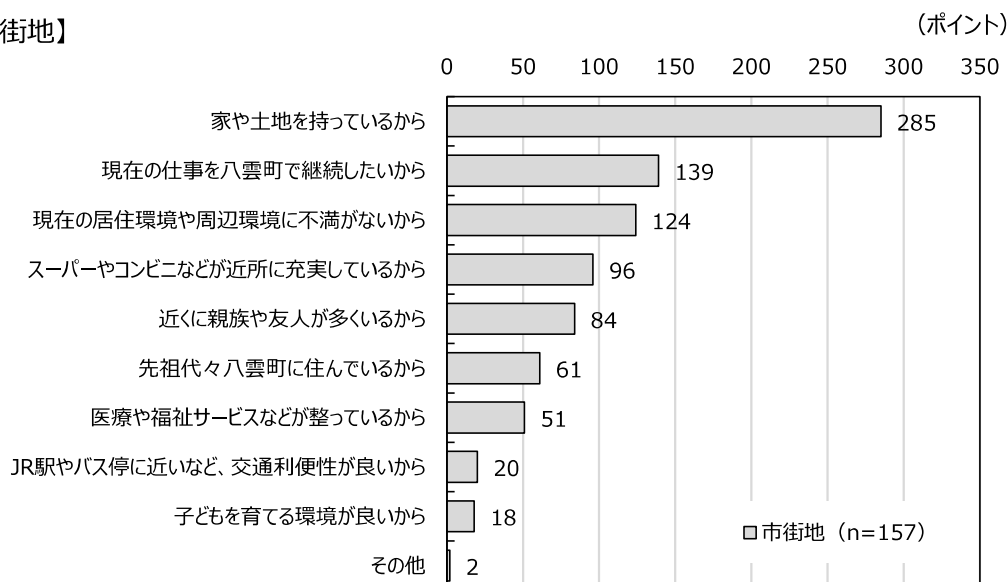
(2) で住み続けたいと回答した方の住み続けたい理由は、「家や土地を持っているから」がとりわけ多く、以下、「現在の仕事を八雲町で継続したいから」、「先祖代々八雲町に住んでいるから」、「近くに親族や友人が多くいるから」及び「現在の居住環境や周辺環境に不満がないから」の順になっています。

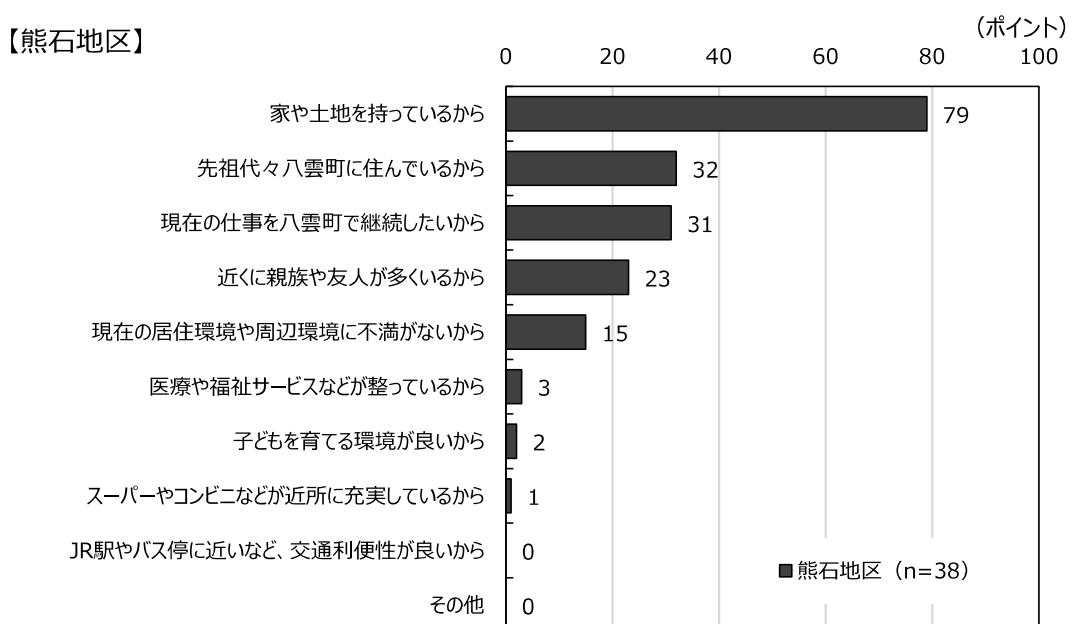
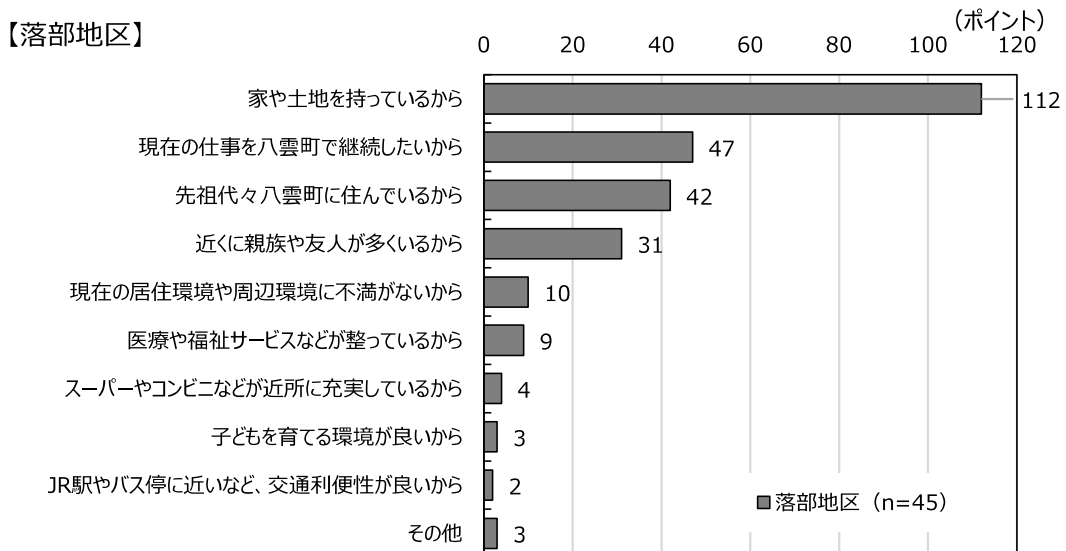
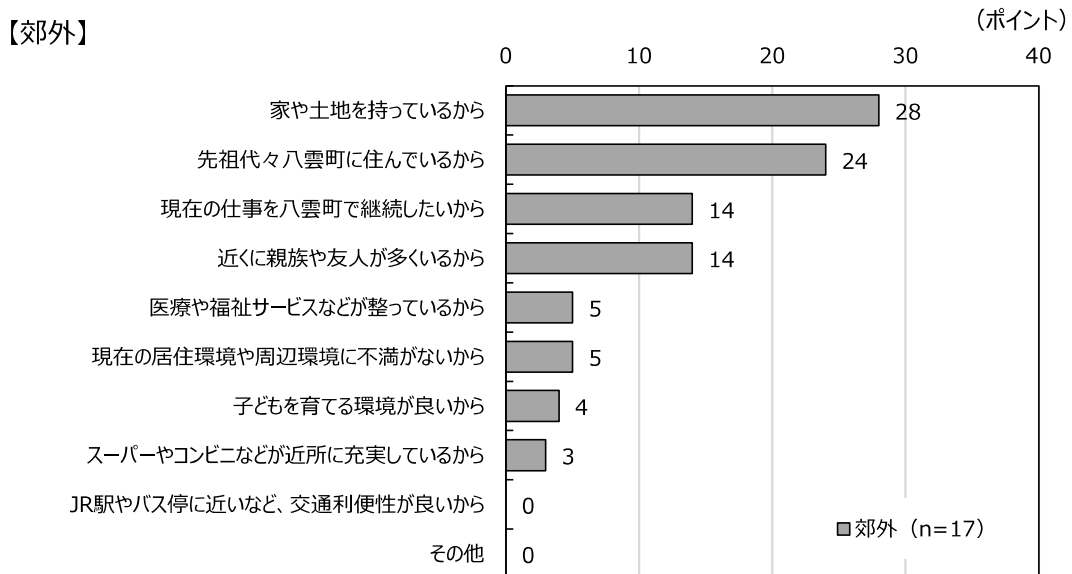
※ポイント換算：1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイント、順位不明を2ポイントとして換算。

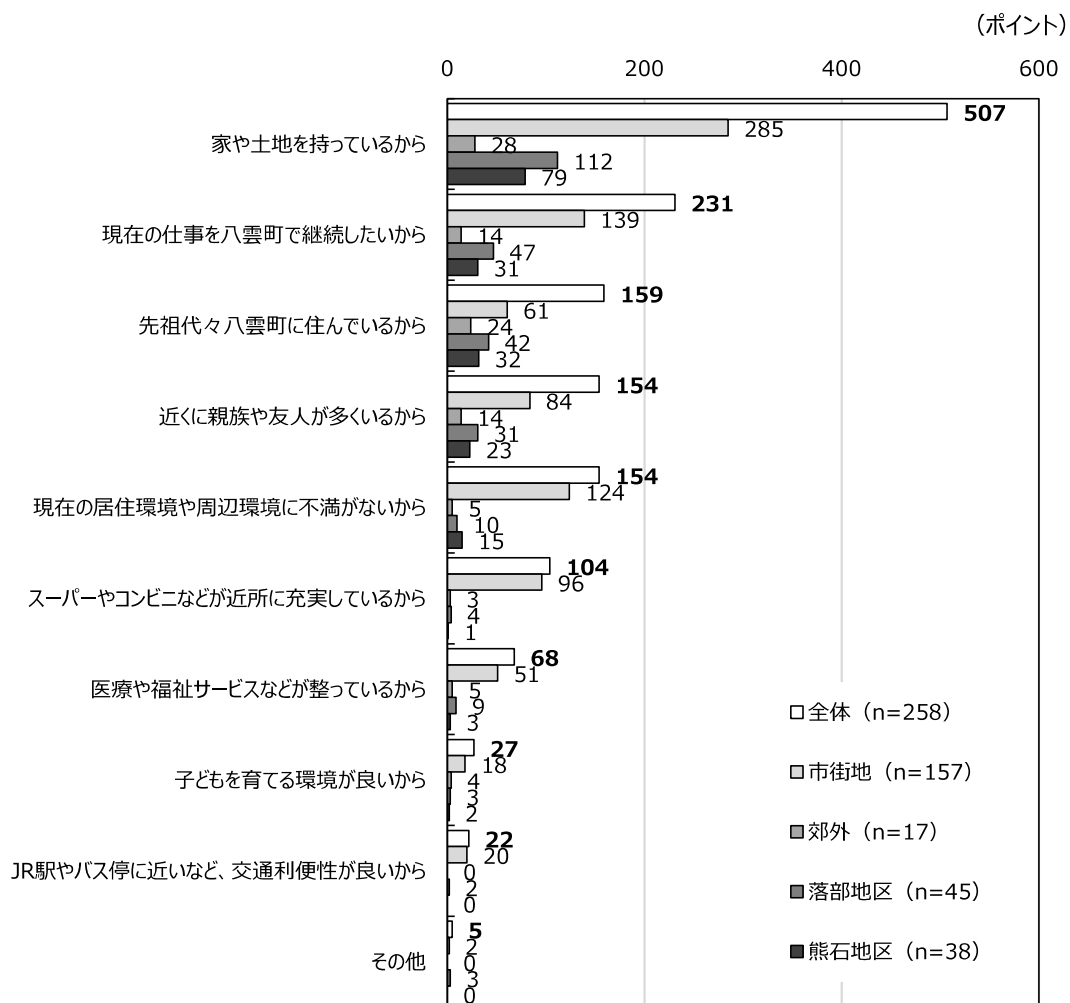
【全体】



【市街地】

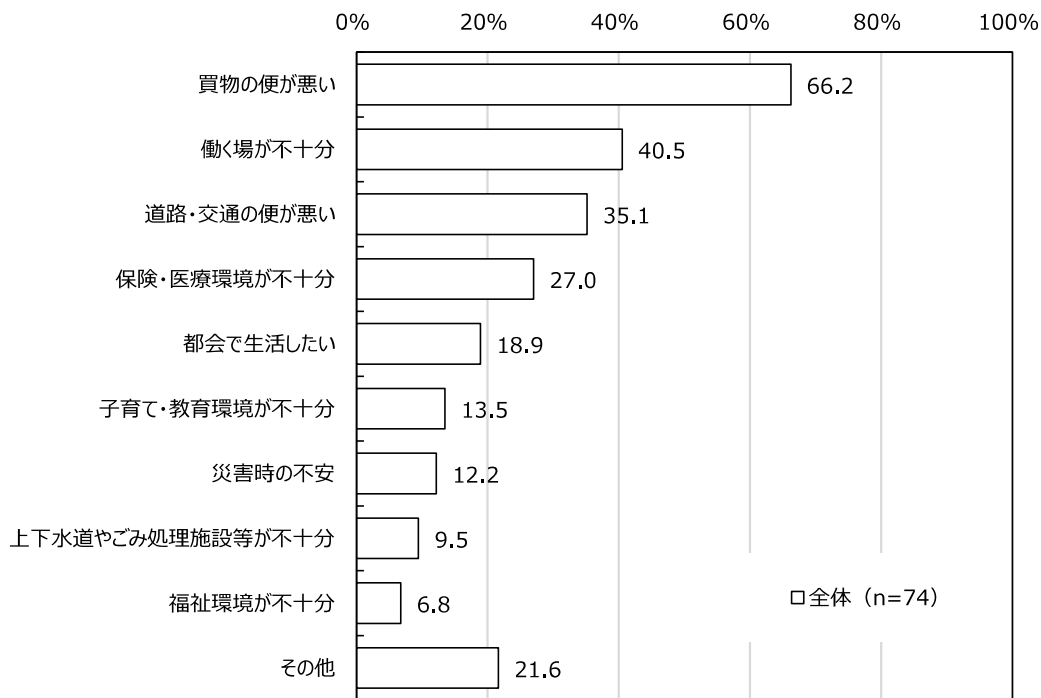






(4) 他に移りたいと思う理由（複数回答）（2）で「2」、「3」回答者）

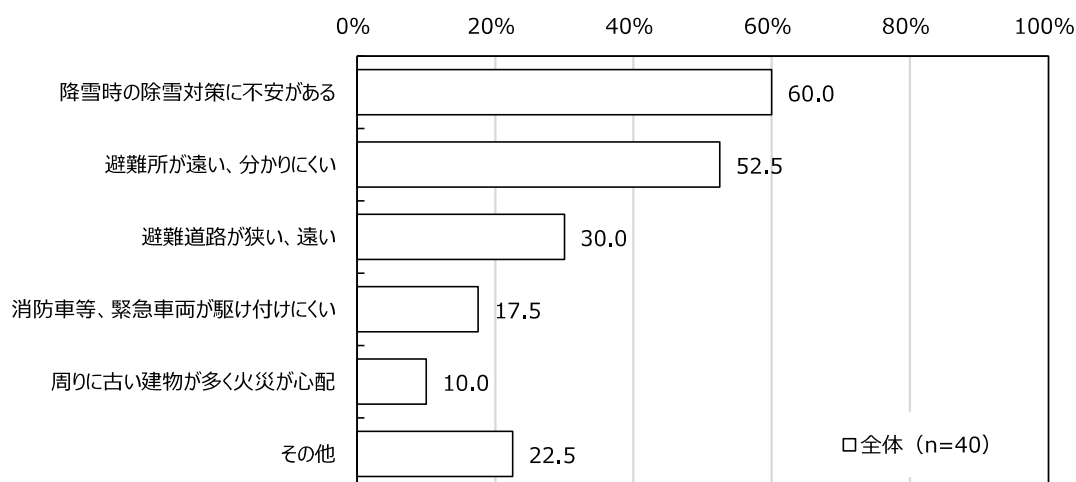
（2）で「町内の他の地域に移りたい」、「他の市町村へ移りたい」と回答した方の移りたい理由は、「買い物の便が悪い」が最も多く、以下、「働く場が不十分」、「道路・交通の便が悪い」、「保健・医療環境が不十分」の順になっています。



地区	上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が不十分	災害時の不安	道路・交通の便が悪い	保険・医療環境が不十分	福祉環境が不十分	子育て・教育環境が不十分	買物の便が悪い	働く場が不十分	都会で生活したい	その他	回答者数
市街地	3 6.8%	5 11.4%	12 27.3%	16 36.4%	4 9.1%	8 18.2%	25 56.8%	16 36.4%	8 18.2%	13 29.5%	44 100.0%
郊外	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
落部地区	2 11.8%	1 5.9%	8 47.1%	3 17.6%	1 5.9%	2 11.8%	13 76.5%	6 35.3%	3 17.6%	2 11.8%	17 100.0%
熊石地区	1 10.0%	2 20.0%	5 50.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 80.0%	8 80.0%	3 30.0%	1 10.0%	10 100.0%
地区不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	7 9.5%	9 12.2%	26 35.1%	20 27.0%	5 6.8%	10 13.5%	49 66.2%	30 40.5%	14 18.9%	16 21.6%	74 100.0%

(5) 災害時の不安（複数回答）

災害時の不安は、「降雪時の除雪対策に不安がある」が 60.0%と最も多く、次いで、「避難所が遠い、または分かりにくい」52.5%、「避難道路が狭い、または遠い」30.0%、「その他」22.5%となっています。

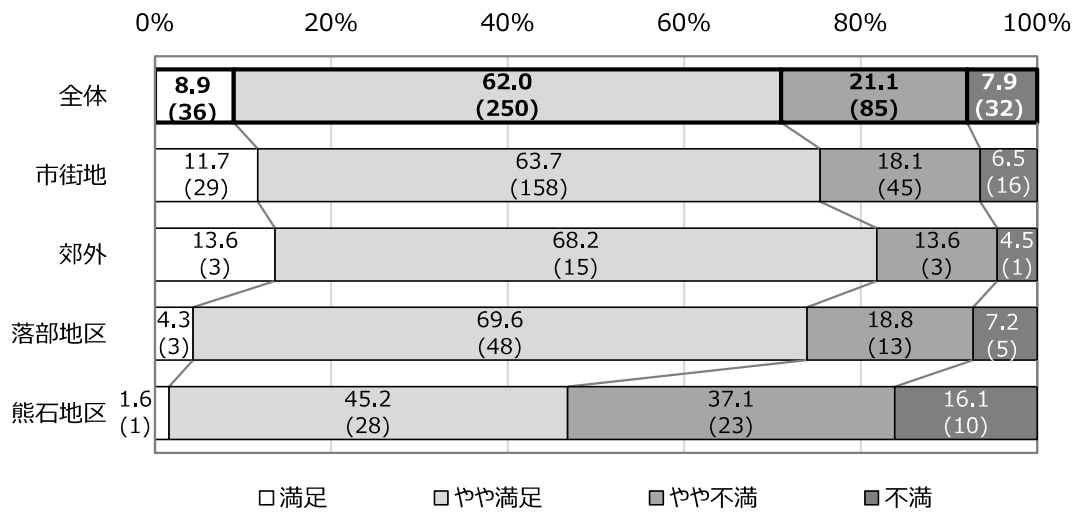


地区	避難所が遠い、または分かりにくい	避難道路が狭い、または遠い	消防車、救急車等、緊急車両が駆け付けにくい	周りに古い建物が多く火災が心配	降雪時の除雪対策に不安がある	その他	回答者数
市街地	12 57.1%	6 28.6%	3 14.3%	3 14.3%	11 52.4%	5 23.8%	21 100.0%
郊外	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%
落部地区	3 50.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	4 66.7%	2 33.3%	6 100.0%
熊石地区	5 45.5%	5 45.5%	1 9.1%	1 9.1%	8 72.7%	2 18.2%	11 100.0%
地区不明	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
合計	21 52.5%	12 30.0%	7 17.5%	4 10.0%	24 60.0%	9 22.5%	40 100.0%

5 生活環境の満足度

(1) 生活環境全般の満足度

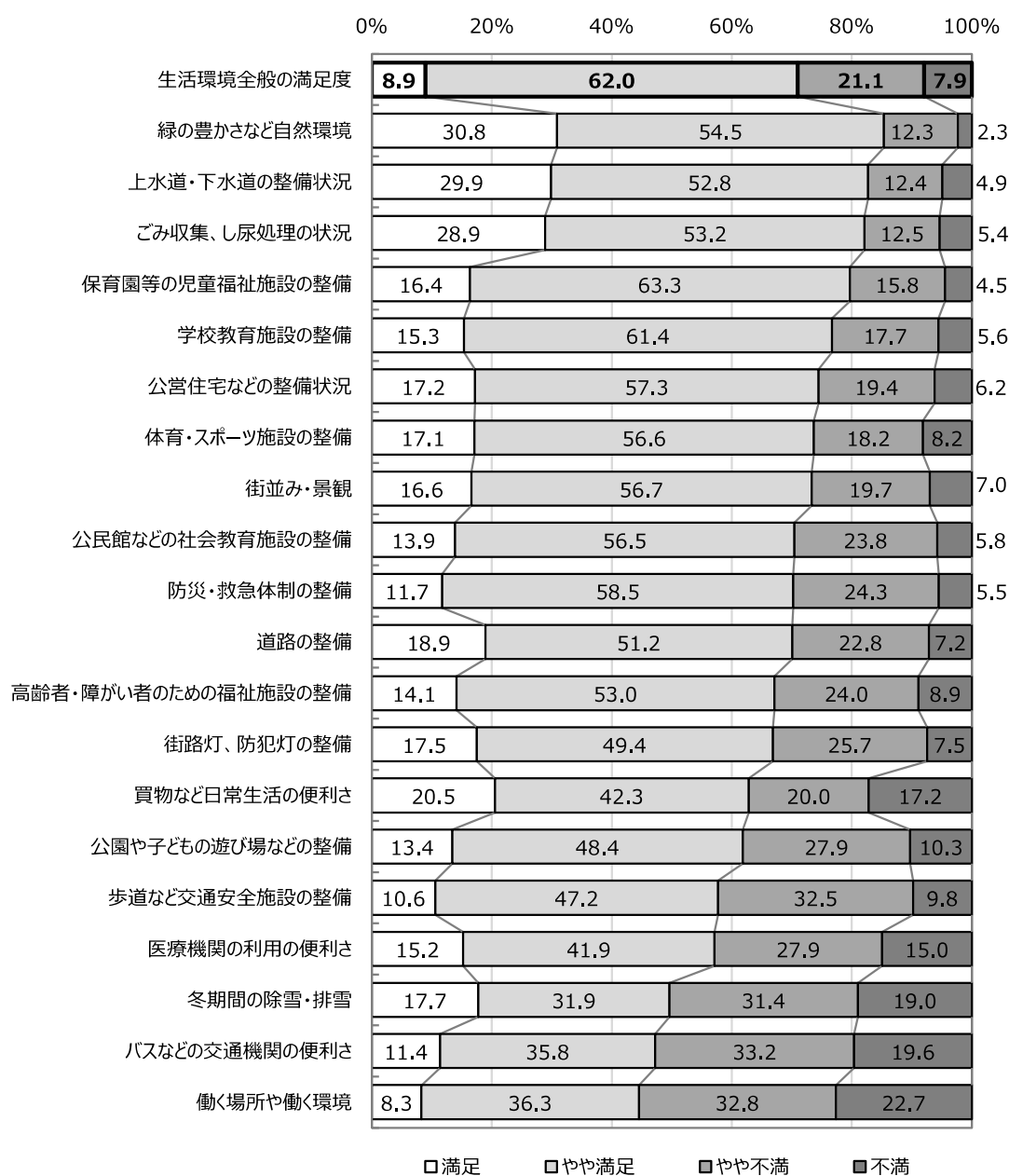
生活環境全般の満足度は、「満足」または「まあ満足」（以下、「満足傾向」）が71.0%、「やや不満」または「非常に不満」（以下、「不満傾向」）は29.0%であり、「満足傾向」が「不満傾向」を大きく上回っています。



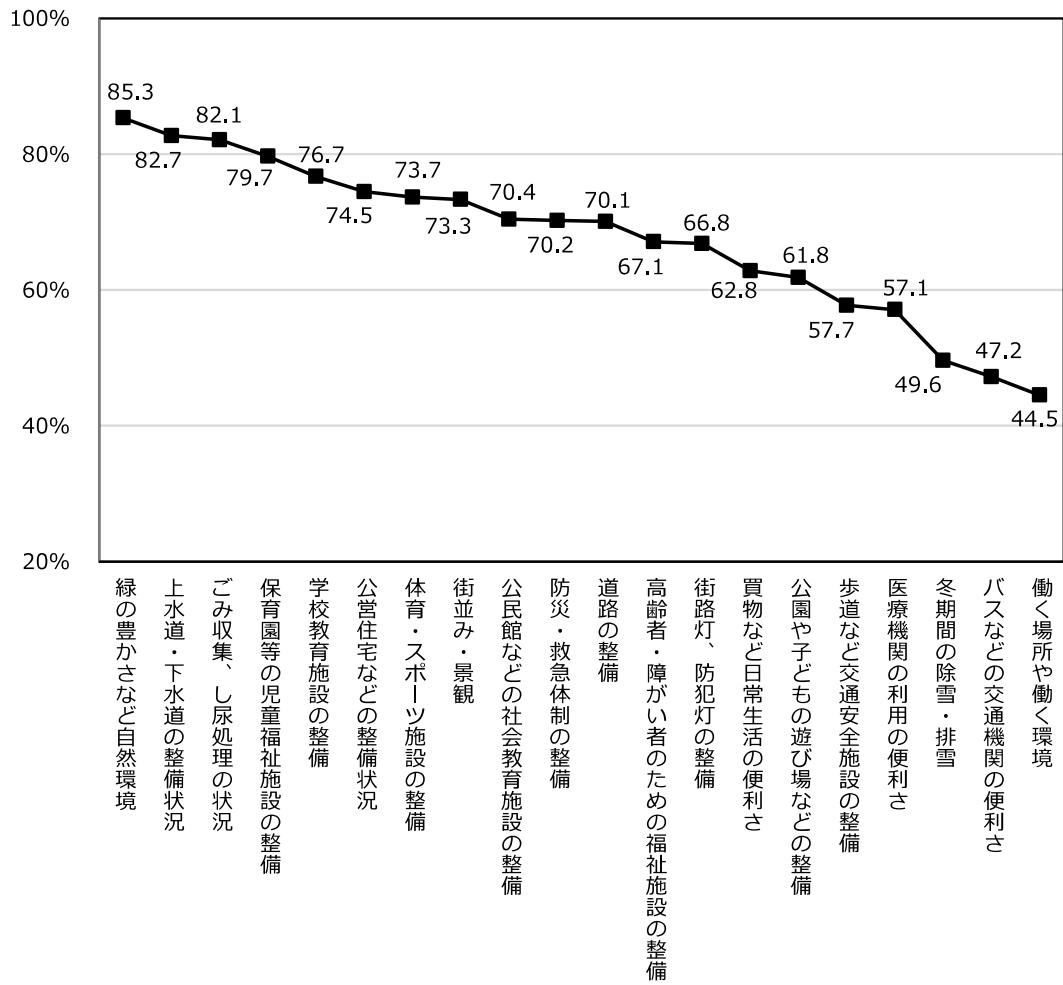
(2) 項目別の満足度の比較

生活環境に関する 20 項目の満足度を比較すると、17 項目で「満足傾向」が「不満傾向」を上回っています。「満足傾向」が高い項目は、高い順に「緑の豊かさなど自然環境」、「上水道・下水道の整備状況」、「ごみ収集、し尿処理の状況」となっており、これら 3 項目の「満足傾向」は 8 割を超えています。

また、「不満傾向」が「満足傾向」を上回っているのは、不満度の高い順に「働く場所や働く環境」、「バスなどの交通機関便利さ」、「冬期間の除雪・排雪」の 3 項目となっています。



	満足	やや満足	やや不満	不満	回答者数
生活環境全般の満足度	36 8.9%	250 62.0%	85 21.1%	32 7.9%	403 100.0%
道路の整備	74 18.9%	200 51.2%	89 22.8%	28 7.2%	391 100.0%
歩道など交通安全施設の整備	41 10.6%	183 47.2%	126 32.5%	38 9.8%	388 100.0%
街路灯、防犯灯の整備	68 17.5%	192 49.4%	100 25.7%	29 7.5%	389 100.0%
冬期間の除雪・排雪	70 17.7%	126 31.9%	124 31.4%	75 19.0%	395 100.0%
公園や子どもの遊び場などの整備	51 13.4%	184 48.4%	106 27.9%	39 10.3%	380 100.0%
バスなどの交通機関の便利さ	43 11.4%	135 35.8%	125 33.2%	74 19.6%	377 100.0%
買物など日常生活の便利さ	80 20.5%	165 42.3%	78 20.0%	67 17.2%	390 100.0%
医療機関の利用の便利さ	60 15.2%	165 41.9%	110 27.9%	59 15.0%	394 100.0%
防災・救急体制の整備	45 11.7%	224 58.5%	93 24.3%	21 5.5%	383 100.0%
保育園等の児童福祉施設の整備	62 16.4%	240 63.3%	60 15.8%	17 4.5%	379 100.0%
高齢者・障がい者のための福祉施設の整備	54 14.1%	203 53.0%	92 24.0%	34 8.9%	383 100.0%
学校教育施設の整備	58 15.3%	232 61.4%	67 17.7%	21 5.6%	378 100.0%
公民館などの社会教育施設の整備	53 13.9%	216 56.5%	91 23.8%	22 5.8%	382 100.0%
体育・スポーツ施設の整備	65 17.1%	215 56.6%	69 18.2%	31 8.2%	380 100.0%
働く場所や働く環境	31 8.3%	136 36.3%	123 32.8%	85 22.7%	375 100.0%
ごみ収集、し尿処理の状況	113 28.9%	208 53.2%	49 12.5%	21 5.4%	391 100.0%
上水道・下水道の整備状況	116 29.9%	205 52.8%	48 12.4%	19 4.9%	388 100.0%
公営住宅などの整備状況	64 17.2%	213 57.3%	72 19.4%	23 6.2%	372 100.0%
街並み・景観	64 16.6%	219 56.7%	76 19.7%	27 7.0%	386 100.0%
緑の豊かさなど自然環境	120 30.8%	212 54.5%	48 12.3%	9 2.3%	389 100.0%

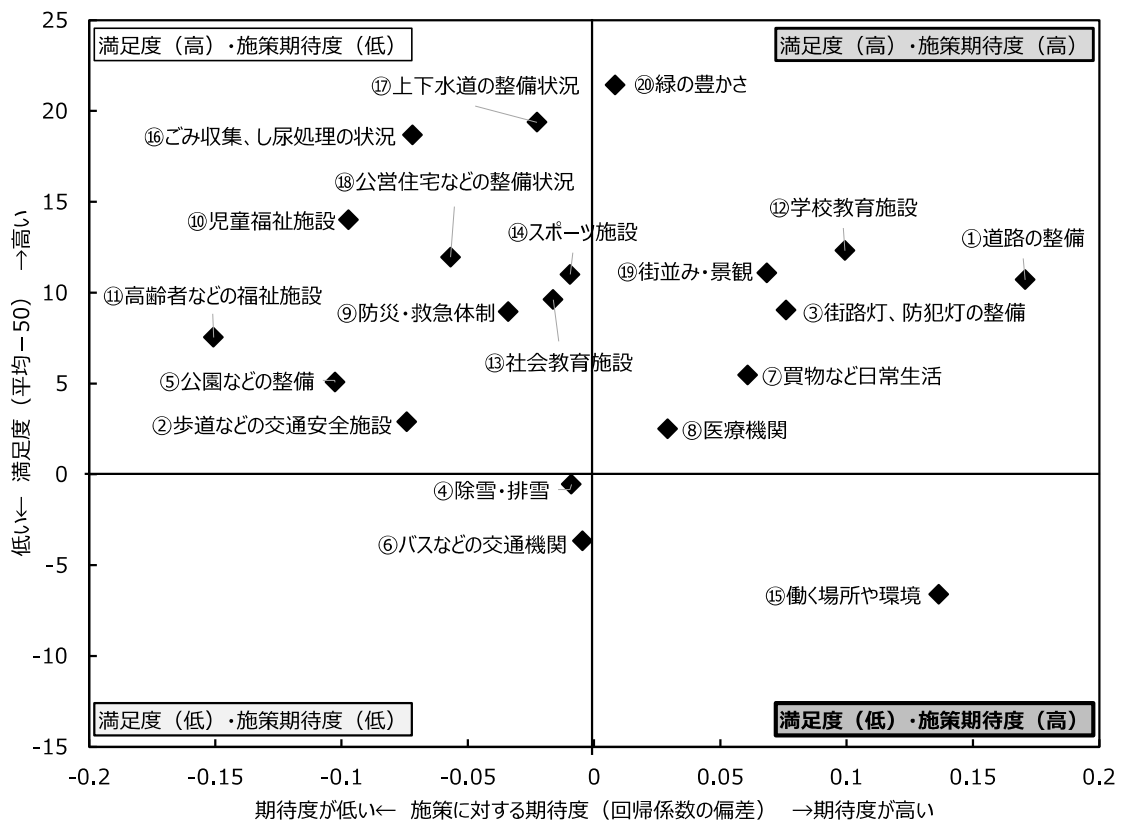


(3) 満足平均と期待度

全体満足度及び各項目満足度結果から、現状の満足度平均※1 と各項目に対する期待度※2 を4つの領域に分類し、回答特性をみると、下図のようになります。

改善の期待が高い項目としては、「働く場所や環境」が挙げられます。

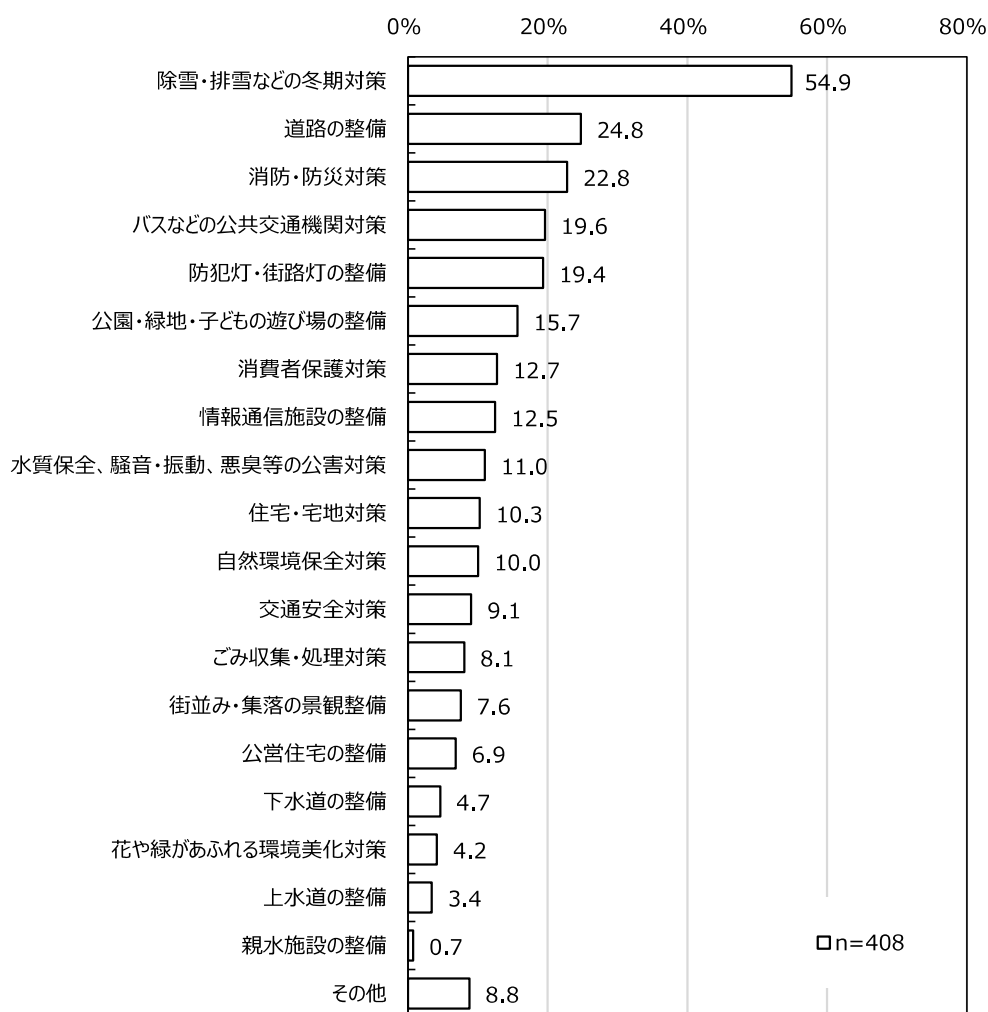
- ※1 満足：100点 やや満足：67点 やや不満：33点 不満：0点として数値化した回答全体の平均値
- ※2 各項目の満足度が全般満足度を与える影響（期待）を重回帰分析により算出
 重回帰分析：1つの目的変数（今回の場合、全般満足度）を複数の説明変数（項目別満足度）で予測する分析手法。要因分析に使われる最もスタンダードな多変量解析。



6 八雲町の「まちづくり」について

(1) 特に重要だと思う対策（複数回答）

今後のまちづくりを進めるために特に重要と思う対策は、「除雪・除排などの冬期対策」が54.9%でとりわけ多く、以下、「道路の整備」が24.8%、「消防・防災対策」が22.8%、「バスなどの公共交通機関対策」が19.6%、「防犯灯・街路灯の整備」が19.4%となっています。



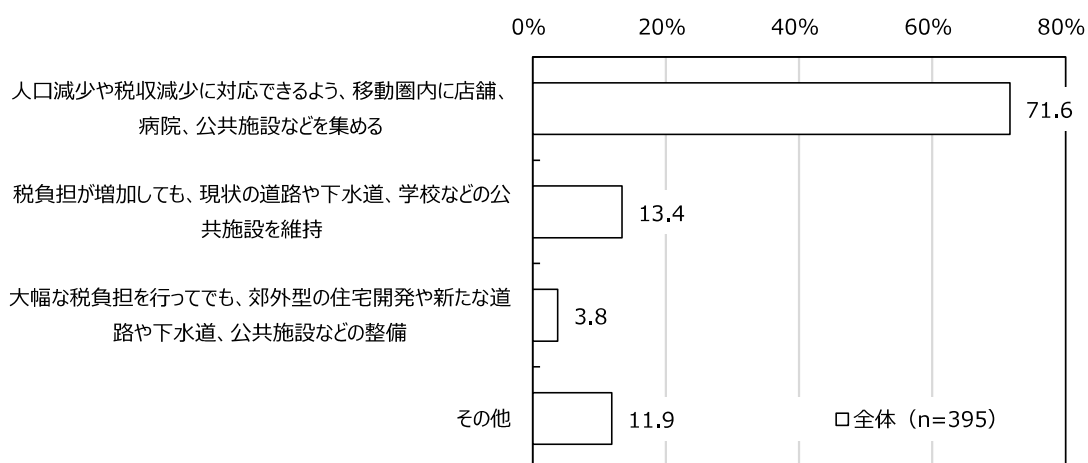
地区	消防・防災 対策	防犯灯・街 路灯の整備	交通安全 対策	消費者保護 対策	ごみ収集・ 処理対策	自然環境 保全対策	上水道の 整備
市街地	55 22.3%	53 21.5%	29 11.7%	31 12.6%	19 7.7%	27 10.9%	4 1.6%
郊外	4 16.0%	6 24.0%	3 12.0%	2 8.0%	3 12.0%	5 20.0%	4 16.0%
落部地区	18 24.7%	12 16.4%	3 4.1%	9 12.3%	4 5.5%	4 5.5%	5 6.8%
熊石地区	16 26.2%	7 11.5%	2 3.3%	10 16.4%	6 9.8%	5 8.2%	1 1.6%
地区不明	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	93 22.8%	79 19.4%	37 9.1%	52 12.7%	33 8.1%	41 10.0%	14 3.4%

地区	下水道の 整備	道路の 整備	除雪・排雪な どの冬期対策	公営住宅の 整備	住宅・宅地 対策	情報通信施 設の整備	街並み・集落 の景観整備
市街地	6 2.4%	62 25.1%	137 55.5%	16 6.5%	24 9.7%	31 12.6%	21 8.5%
郊外	2 8.0%	9 36.0%	11 44.0%	0 0.0%	1 4.0%	2 8.0%	1 4.0%
落部地区	9 12.3%	13 17.8%	44 60.3%	3 4.1%	9 12.3%	13 17.8%	2 2.7%
熊石地区	2 3.3%	17 27.9%	31 50.8%	9 14.8%	8 13.1%	5 8.2%	7 11.5%
地区不明	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	19 4.7%	101 24.8%	224 54.9%	28 6.9%	42 10.3%	51 12.5%	31 7.6%

地区	親水施設の 整備	花や緑があ ふれる環境 美化対策	水質保全、騒 音・振動、悪臭 等の公害対策	公園・緑地・ 子どもの遊 び場の整備	バスなどの公 共交通機関 対策	その他	回答者数
市街地	0 0.0%	14 5.7%	29 11.7%	46 18.6%	32 13.0%	25 10.1%	247 100.0%
郊外	0 0.0%	1 4.0%	2 8.0%	0 0.0%	4 16.0%	0 0.0%	25 100.0%
落部地区	2 2.7%	2 2.7%	11 15.1%	9 12.3%	20 27.4%	7 9.6%	73 100.0%
熊石地区	1 1.6%	0 0.0%	3 4.9%	9 14.8%	24 39.3%	3 4.9%	61 100.0%
地区不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%
合計	3 0.7%	17 4.2%	45 11.0%	64 15.7%	80 19.6%	36 8.8%	408 100.0%

(2) 持続的な発展のためのまちづくり（複数回答）

今後、人口が減少していく中で、町が持続的に発展していくために必要なまちづくりとしては、「人口減少や税収の減少などに柔軟に対応できるよう、徒歩や公共交通などで移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集める。」が71.6%でとりわけ多く、以下、「人口減少に伴って一人あたりの税負担が増加しても、現状の道路や下水道、学校などの公共施設などを現状のまま維持していく。」が13.4%、「大幅な税負担を行ってでも、郊外型の住宅開発やそれに伴う新たな道路や下水道、公共施設などの整備を積極的に行う。」が3.8%、「その他」が11.9%となっています。



地区	人口減少や税収の減少などに柔軟に対応できるよう、徒歩や公共交通などで移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集める。	人口減少に伴って一人あたりの税負担が増加しても、現状の道路や下水道、学校などの公共施設などを現状のまま維持していく。	大幅な税負担を行ってでも、郊外型の住宅開発やそれに伴う新たな道路や下水道、公共施設などの整備を積極的に行う。	その他	回答者数
市街地	168 70.0%	33 13.8%	9 3.8%	31 12.9%	240 100.0%
郊外	17 70.8%	5 20.8%	0 0.0%	2 8.3%	24 100.0%
落部地区	52 77.6%	7 10.4%	4 6.0%	4 6.0%	67 100.0%
熊石地区	44 71.0%	8 12.9%	2 3.2%	10 16.1%	62 100.0%
地区不明	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
合計	283 71.6%	53 13.4%	15 3.8%	47 11.9%	395 100.0%

7 アンケート調査票

八雲町の今後のまちづくりに関する アンケート調査ご協力をお願い

町民の皆様には、日頃から町政に対し格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび八雲町では、道路や公園などの整備方針や都市づくりの指針となる「八雲町都市計画マスタープラン」の見直しを行う予定です。

本調査は、計画の策定にあたり、町民の皆様のご意見をお聞かせいただき、これからのまちづくりを考える貴重な資料とするために実施するものです。

お忙しいところ恐縮ですが、今後のまちづくりを、皆様とともに考えていきたいと思っておりますので、調査の目的、趣旨をご理解のうえ、率直なご意見をお聞かせください。

なお、このアンケートは統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはありません。

令和3年9月

八雲町長 岩村 克詔

「八雲町都市計画マスタープラン」

概ね20年後を目標として、市街地などの土地利用や道路や公園などの整備の方針などを示した都市づくりの指針となる計画です。

調査票の記入について

- ・調査対象は、年代別、居住地域別の配布数を設定した上で、住民基本台帳より無作為に1,200人を抽出しました。
- ・回答は、できる限り宛名の本人がお答えください。ご本人の記入が難しい場合は、ご家族の方等が記入されても構いません。
- ・ご記入の内容は**令和3年9月1日現在**としてください。
- ・回答は、設問ごとに該当する番号を○で囲んで下さい。なお、該当するお答えが見当たらない場合は「その他」の欄の()内に具体的な内容を記入して下さい。
- ・ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、10月18日(月)までに郵便ポストへ投函をお願いいたします。(切手の必要はありません。)

本調査についてのお問い合わせは、お手数ですが下記の連絡先までお願いいたします。

【連絡先】八雲町役場 建設課 都市計画係

電話：0137-62-2115 (内線285)

担当：池田

お問い合わせ時間：(月～金：平日) 9:00～17:00

今後のまちづくりに関するアンケート調査票

質問1 あなた自身のことについて

(1) あなた自身のことについてお答えください。(それぞれ1つ選択)

①性別	1. 男性	2. 女性		
②年齢	ア. 20歳代 オ. 60歳代	イ. 30歳代 カ. 70歳代	ウ. 40歳代 キ. 80歳以上	エ. 50歳代
③職業 (主たるもの)	1. 農林業 4. その他サービス業等(公務員を含む) 5. パートタイム・アルバイト 6. 主婦(夫) 9. その他()	2. 製造業・建設業 7. 無職	3. 卸小売・飲食業 8. 学生	
④家族構成	1. 単身(一人暮らし) 3. 夫婦と子(18歳未満の子がいる) 5. 一人親と子(18歳未満の子がいる) 7. 夫婦と親 9. その他()	2. 夫婦のみ 4. 夫婦と子(子は18歳以上) 6. 一人親と子(子は18歳以上) 8. 親と子、孫(三世代以上同居)		
⑤八雲町での 通算居住年数	1. 5年未満 3. 10年以上20年未満	2. 5年以上10年未満 4. 20年以上		
⑥居住地域	1. 黒岩方面	黒岩、山崎、花浦		
	2. 市街地(線路上)	住初町、栄町、宮園町、末広町、出雲町、相生町、三杉町、緑町		
	3. 市街地(線路下)	元町、東町、本町、富士見町、東雲町、豊河町、内浦町、立岩		
	4. 大新方面	熱田、春日、大新		
	5. 上八雲方面	上八雲、鉛川、富咲		
	6. 落部方面	浜松、山越、野田生、桜野、東野、わらび野、落部、栄浜、入沢、旭丘、下の湯、上の湯		
	7. 熊石地域	全域		
⑦お住いの住宅の種類	1. 一戸建て(持ち家) 3. アパート・賃貸マンション 5. 社宅・官舎・寮 6. 老人ホーム、グループホーム等の福祉施設 7. その他()	2. 一戸建て(借家) 4. 公営住宅		

質問2 交通手段について

(1) 自家用車の有無(台数)についてお答えください。(1つ選択)

1. 有()台 2. 無

(2) あなたが最もよく利用する交通手段をお答えください。(1つ選択)

1. 自家用車 2. JR 3. バス 4. タクシー 5. 自転車
6. 徒歩 7. その他()

(3) 自宅から最寄りのJR駅まで徒歩でどれくらいかかりますか。(1つ選択)

1. 5分未満 2. 5～10分未満 3. 10～15分未満
4. 15～20分未満 5. 20～30分未満 6. 30分以上

(4) 自宅から最寄りのバス停まで徒歩でどれくらいかかりますか。(1つ選択)

1. 5分未満 2. 5～10分未満 3. 10～15分未満
4. 15～20分未満 5. 20～30分未満 6. 30分以上

(5) 普段、JRをどのくらいの頻度で利用していますか(通勤・通学を含む)。(1つ選択)

1. ほぼ毎日 2. 1週間に2～3回程度 3. 1週間に1回程度
4. 1ヶ月に1～3回程度 5. 数ヶ月に1回程度 6. 利用しない

(6) 普段、バスをどのくらいの頻度で利用していますか(通勤・通学を含む)。(1つ選択)

1. ほぼ毎日 2. 1週間に2～3回程度 3. 1週間に1回程度
4. 1ヶ月に1～3回程度 5. 数ヶ月に1回程度 6. 利用しない

質問3 八雲町での暮らしについて

(1) 居住環境で重要と考えるものはなんですか。(3つまで選択)

1. 買い物や通院などの利便性 2. ゆとりある閑静な居住環境
3. 公共交通の利便性 4. 車での移動しやすさ
5. 災害時の安全性 6. 治安及び防犯上の安全性
7. 公園や緑地などの環境 8. 良好な景観
9. 良好な地域コミュニティ 10. その他()

(2) 現在お住まいの地域に今後も住み続けたいと思いますか。(1つ選択)

1. 住み続けたいと思う ⇒ (3) へ
 2. 町内の他の地域に移りたい ⇒ (4) へ
 3. 他の市町村に移りたい(市町村名:) ⇒ (4) へ
 4. わからない ⇒ (6) へ

(3) 上の質問(2)で「1. 住み続けたいと思う」と答えた方にお聞きします。住み続けたいと思う理由は何ですか。1～10の番号のうち優先順位の高い順に3つまでご記入ください。

1. 家や土地を持っているから
 2. 先祖代々八雲町に住んでいるから
 3. 現在の仕事を八雲町で継続したいから
 4. 近くに親族や友人が多くいるから
 5. JR駅やバス停に近いなど、交通利便性が良いから
 6. スーパーやコンビニなどが近所に充実しているから
 7. 幼稚園・保育園が近い、公園が多いなど、子どもを育てる環境が良いから
 8. 医療や福祉サービスなど、高齢期に暮らしやすい環境が整っているから
 9. 現在の居住環境や周辺環境に不満がないから
 10. その他()

1位	2位	3位

(4) 上の質問(2)で「2. 町内の他の地域に移りたい」「3. 他の市町村に移りたい」と答えた方にお聞きします。他の地域や市町村に移りたいと思う理由をお答えください。(3つまで選択)

1. 上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が不十分
 2. 災害時の不安
 3. 道路・交通の便が悪い
 4. 保健・医療環境が不十分
 5. 福祉環境が不十分
 6. 子育て・教育環境が不十分
 7. 買物の便が悪い
 8. 働く場が不十分
 9. 都会で生活したい
 10. その他()

(5) 上の質問(4)で「2. 災害時の不安」と答えた方にお聞きします。不安を感じることをお答えください。(3つまで選択)

- 1. 避難所が遠い、または分かりにくい
- 2. 避難道路が狭い、または遠い
- 3. 消防車、救急車等、緊急車両が駆け付けにくい
- 4. 周りに古い建物が多く火災が心配
- 5. 降雪時の除雪対策に不安がある
- 6. その他 ()

(6) 八雲町の生活環境の現状について、以下の項目の満足度をお答えください。

(それぞれ1つ選択)

評価する項目	満足	やや満足	やや不満	不満
① 道路の整備	1	2	3	4
② 歩道など交通安全施設の整備	1	2	3	4
③ 街路灯、防犯灯の整備	1	2	3	4
④ 冬期間の除雪・排雪	1	2	3	4
⑤ 公園や子供の遊び場などの整備	1	2	3	4
⑥ バスなどの交通機関の便利さ	1	2	3	4
⑦ 買物など日常生活の便利さ	1	2	3	4
⑧ 医療機関の利用の便利さ	1	2	3	4
⑨ 防災・救急体制の整備	1	2	3	4
⑩ 保育園等の児童福祉施設の整備	1	2	3	4
⑪ 高齢者・障がい者のための福祉施設の整備	1	2	3	4
⑫ 学校教育施設の整備	1	2	3	4
⑬ 公民館などの社会教育施設の整備	1	2	3	4
⑭ 体育・スポーツ施設の整備	1	2	3	4
⑮ 働く場所や働く環境	1	2	3	4
⑯ ごみ収集、し尿処理の状況	1	2	3	4
⑰ 上水道・下水道の整備状況	1	2	3	4
⑱ 公営住宅などの整備状況	1	2	3	4
⑲ 街並み・景観	1	2	3	4
⑳ 緑の豊かさなど自然環境	1	2	3	4

(7) 前頁の全項目を総合的に判断して生活環境全般の満足度をお答えください

(1つ選択)

- 1. 満足
- 2. やや満足
- 3. やや不満
- 4. 不満

質問4 八雲町の「まちづくり」について

(1) 今後のまちづくりを進めるために、特に重要と思う対策についてお答えください。

(3つまで選択)

- | | | |
|----------------------|-------------------------|-------------|
| 1. 消防・防災対策 | 2. 防犯灯・街路灯の整備 | 3. 交通安全対策 |
| 4. 消費者保護対策 | 5. ごみ収集・処理対策 | 6. 自然環境保全対策 |
| 7. 上水道の整備 | 8. 下水道の整備 | 9. 道路の整備 |
| 10. 除雪・排雪などの冬期対策 | 11. 公営住宅の整備 | 12. 住宅・宅地対策 |
| 13. 情報通信施設の整備 | 14. 街並み・集落の景観整備 | 15. 親水施設の整備 |
| 16. 花や緑があふれる環境美化対策 | 17. 水質保全、騒音・振動、悪臭等の公害対策 | |
| 18. 公園・緑地・子どもの遊び場の整備 | 19. バスなどの公共交通機関対策 | |
| 20. その他 (| |) |

(2) 今後、八雲町においても人口が減少することが予想されています。人口減少が進行する中で、八雲町が持続的な発展を遂げていくためには、どのようなまちづくりを行っていくべきだと思いますか。

(1つ選択)

- | |
|----------------------------------------------------------------|
| 1. 人口減少や税収の減少などに柔軟に対応できるよう、徒歩や公共交通などで移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集める。 |
| 2. 人口減少に伴って一人あたりの税負担が増加しても、現状の道路や下水道、学校などの公共施設などを現状のまま維持していく。 |
| 3. 大幅な税負担を行ってでも、郊外型の住宅開発やそれに伴う新たな道路や下水道、公共施設などの整備を積極的に行う。 |
| 4. その他 (|

質問5 その他、今後のまちづくりについて思いつくことを自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。